

6.4 動物

6.4.1 事後調査の結果等

1) 調査内容

調査内容を表 6.4-1 に示す。

表 6.4-1 調査内容（動物）

区分	調査内容
環境の状況	・動物相及び注目すべき種 ・注目すべき種の生息環境等
対象事業の状況及び対象事業による負荷の状況	・工事の実施状況 ・環境保全措置の実施状況

「区分」は、「仙台市環境影響評価技術指針」における「事後調査の内容」を踏まえたものである。なお、「環境保全措置の実施状況」は、事業者が実施するものであり「対象事業の状況及び対象事業による負荷の状況」と関連することから同項目のなかで整理した。

2) 調査方法

調査方法を表 6.4-2～表 6.4-5 に示す。現地調査の対象は、哺乳類、鳥類、爬虫類・両生類、昆虫類とする。

表 6.4-2 現地調査方法（哺乳類）

任意観察法	・調査地域内を踏査し、動物を目視および鳴き声等の確認により生息種を把握した。
フィールドサイン法	・調査地域内を踏査し、糞、足跡、食痕、巣、爪痕、掘り返し等のフィールドサインにより、生息種を把握した。
自動撮影法	・センサーカメラを設置し撮影を行った。

表 6.4-3 現地調査方法（鳥類）

任意観察法	・他網の調査 時や工事区域付近を移動中にシギ・チドリ類及び重要種が確認された場合は、適宜記録を行った。
ラインセンサス法	・予め設定したセンサスルート（図 6.4-1 の L1～L3）上を歩き、一定範囲内に出現する鳥類を姿や鳴き声により識別して、種別の個体数をカウントした。
定点調査法	・調査対象地域を広範囲に見渡せる場所に調査地点を設定し、出現する渡り鳥及び希少猛禽類を含む鳥類全般を観察・記録した。 観察された鳥類は、種別個体数をカウントすると共に、工事区域に関わる飛翔があれば飛翔経路を記録した。

「他網の調査」とは哺乳類・爬虫類・両生類・昆虫類の調査をいう。

表 6.4-4 現地調査方法（爬虫類、両生類）

任意観察法	・調査地域内を踏査し、成体、卵、幼生の目視又は捕獲により、生息種を把握した。
-------	--

表 6.4-5 現地調査方法（昆虫類）

任意観察法	・調査地域内を踏査し、成体、卵、幼生の目視又は捕獲により、生息種を把握した。
スウィーピング法	・捕虫網を水平に振り草本、地上の昆虫類をすくい取り、生息種を把握した。
ライトトラップ法	・夜間、ボックス式ライトトラップを設置し、誘引される夜行性昆虫を把握した。
ベイトトラップ法	・糖蜜や腐肉などの誘引餌（ベイト）を入れたトラップを埋設して、落ち込んだ昆虫を採集し、生息種を確認した。

3) 調査地域等

現地調査については、工事区域内及び工事区域周辺 200m の範囲とした。哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類については、上記の範囲に加え、蒲生干潟及び七北田川も対象とした。

設定した調査地点を表 6.4-6 及び図 6.4-1 に示す。

表 6.4-6 調査地点（動物）

区分	No.	環境の概要
地点	P1	蒲生干潟及び七北田川と対象区域を行き来する鳥類及び、区画内で行動する鳥類の動きを把握するための地点
	P2	工事区域内で行動する鳥類の動きを把握するための地点
	P3	工事区域内の土地利用であり、昆虫類調査のためにライトトラップを実施する地点
	P4	工事区域内の土地利用であり、昆虫類調査のためにベイトトラップを実施する地点
	P5	工事区域内の土地利用であり、動物撮影用のセンサーカメラを設置する地点
	P6	工事区域内の土地利用であり、動物撮影用のセンサーカメラを設置する地点
	P7	工事区域外の土地利用であり、工事区域から 200m 範囲内でライトトラップを実施する地点
	P8	工事区域外の土地利用であり、工事区域から 200m 範囲内でベイトトラップを実施する地点
区画	A1	蒲生干潟、工事区域と共に干潮時のシギ・チドリ類等利用状況を把握する区画
	A2	七北田川、工事区域と共に鳥類および哺乳類の利用状況を把握する区画
ライン	L1	工事区域内の土地利用であり、哺乳類、鳥類、昆虫の踏査調査ライン
	L2	工事区域外周から 200m 以内土地利用であり、哺乳類、鳥類、昆虫の踏査調査ライン
	L3	工事区域の外周の土地利用であり、哺乳類、鳥類、昆虫の踏査調査ライン

1 工事区域から離れている蒲生干潟（A1）及び七北田川（A2）内の状況については、補足的に調査した。

2 七北田川（A2）において、哺乳類については、工事区域に影響の大きい左岸の状況を確認し、鳥類については、視認できる範囲で確認した。

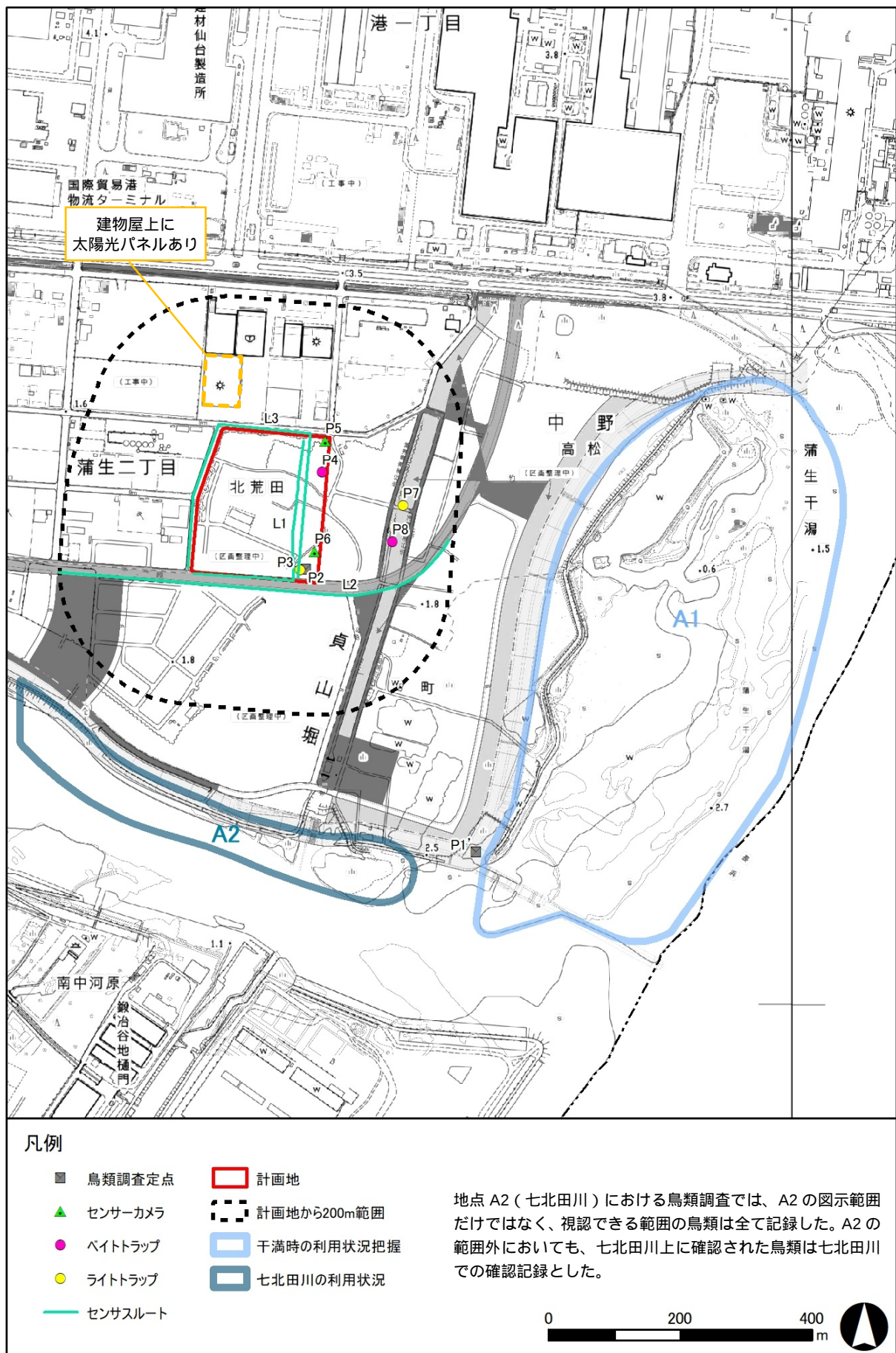


図 6.4-1 調査地点（動物）

4) 調査期間等

現地調査の調査期間を表 6.4-7～表 6.4-10 に示す。

表 6.4-7 調査方法と実施時期（哺乳類）

調査方法	調査期日
任意踏査	夏季：令和5年8月7日・8日 秋季：令和5年10月2日・3日 冬季：令和5年12月20日・21日 春季：令和6年5月27日・28日
フィールドサイン法	夏季：令和5年8月7日・8日 秋季：令和5年10月2日・3日 冬季：令和5年12月20日・21日 春季：令和6年5月27日・28日
自動撮影法	各季調査の合間の期間に自動撮影機能をもつセンサーカメラを設置した。 撮影期間1（夏季～秋季）：令和5年8月7日～同10月2日 撮影期間2（秋季～冬季）：令和5年10月2日～同12月20日 撮影期間3（冬季～春季）：令和5年12月21日～令和6年4月26日 撮影期間4（春季）：令和6年4月26日～同5月28日

表 6.4-8 調査方法と実施時期（鳥類）

調査方法	調査期日
任意踏査	夏季：令和5年8月7日・8日 秋季：令和5年10月2日・3日 冬季：令和5年12月20日・21日 春季：令和6年4月25日・26日
ラインセンサス調査	夏季：令和5年8月7日・8日 秋季：令和5年10月2日・3日 冬季：令和5年12月20日・21日 春季：令和6年4月25日・26日
定点調査	夏季：令和5年8月7日・8日 秋季：令和5年10月2日・3日 冬季：令和5年12月20日・21日 春季：令和6年4月25日・26日

表 6.4-9 調査方法と実施時期（爬虫類・両生類）

調査方法	調査期日
任意踏査	夏季：令和5年8月7日・8日 秋季：令和5年10月2日・3日 冬季：令和5年12月20日・21日 春季：令和6年5月27日・28日

鳥類の補足調査で現地に入ることから、同調査中に可能な範囲で、爬虫類・両生類についても補足的に調査を行った。

表 6.4-10 調査方法と実施時期（昆虫類）

調査方法	調査期日
任意観察法	夏季：令和5年8月7日・8日 秋季：令和5年10月2日・3日 春季：令和6年5月27日・28日
スウィーピング法	夏季：令和5年8月7日・8日 秋季：令和5年10月2日・3日 春季：令和6年5月27日・28日
ライトトラップ調査	夏季：令和5年8月7日設置～8月8日回収 秋季：令和5年10月2日設置～10月3日回収 春季：令和6年5月27日設置～5月28日回収
ベイトトラップ調査	夏季：令和5年8月7日設置～8月8日回収 秋季：令和5年10月2日設置～10月3日回収 春季：令和6年5月27日設置～5月28日回収

5) 注目すべき種の基準

調査範囲内における注目すべき種の基準について、表 6.4-11 及び表 6.4-12 に示す。なお、選定基準の整理に当たっては、評価書において整理した文献をベースとしたが、最新版が発行されている場合はその文献に基づくものへ更新した。

具体的には「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2024 年版-」が該当する。

表 6.4-11 注目すべき種の選定基準

判断基準		番号・記号	説明
仙台市における保全上重要な種の区分 ¹	学術上重要種	1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種、あるいは生息地・生育地がごく限られている種
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限等の分布限界となる種
		3	仙台市が模式産地（タイプロカリティ）となっている種
		4	1,2,3 には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている個体群が存在する種など）
	注目種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種
			野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種
		A	現在、ほとんど見るのができない、あるいは近い将来ほとんど見るのができなくなるおそれがある種
			減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種
			減少している、あるいは存続基盤が脆弱で、生息・生育条件の変化によっては上位ランクに移行する要素を有する種
		+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種
			もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい
		・	判断に資する情報がない
		○	本市の各環境分類における環境を指標する種（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標）
	環境指標種	○	本市の各環境分類における環境を指標する種（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標）
レッドデータ等	国 RL（環境省レッドリスト 2020（令和 2 年環境省）掲載種）	EX	絶滅
		EW	野生絶滅
		CR+EN	絶滅危惧Ⅰ類
		CR	絶滅危惧ⅠA 類
		EN	絶滅危惧ⅠB 類
		VU	絶滅危惧Ⅱ類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群
	県 RL（「宮城県レッドリスト 2024」（令和 6 年宮城県）掲載種）	EX	絶滅
		EW	野生絶滅
		CR+EN	絶滅危惧Ⅰ類
		VU	絶滅危惧Ⅱ類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群
		YO	要注目種（隔離分布種、分布北限・南限種、基準産地種、その他）
	天然記念物、種保存法	特天	文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）における特別天然記念物
		天然	文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）における天然記念物
		国内	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）における国内希少野生動植物種
		国際	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）における国際希少野生動植物種
		○	出典 の「今年度調査で確認された希少種」に該当。

¹ 「仙台市における保全上重要な種の区分」の定義は出典 による。なお、¹では国 RL が参考文献として言及されているが、「国 RL 種であるが」に未掲載種が一部確認されたことから、適宜補足を行い、本選定基準を作成した。

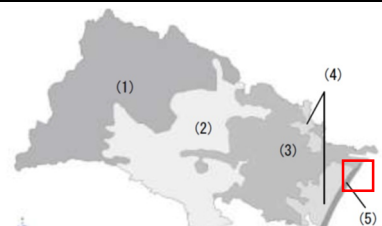
出典：

「令和 3 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（令和 4 年 2 月、仙台市）

「蒲生地域での確認希少種」は「令和元年度東北地方太平洋沿岸地域重点地区調査業務調査報告書」（令和 2 年 3 月、環境省）における「今年度調査で確認された希少種」に基づく。

表 6.4-12 減少種の地域区分（赤枠は調査範囲）

記号	地域区分	調査範囲との重複
(1)	山地地域	×
(2)	西部丘陵地・田園地域	×
(3)	市街地地域	○
(4)	東部田園地域	○
(5)	海浜地域（後背の樹林帯も含む）	○



工事区域は、「(3) 市街地地域」に該当する。

出典：「令和 3 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（令和 4 年 2 月、仙台市）

6) 調査結果

4 季調査のうち、夏季・秋季・冬季の 3 季分は「事後調査報告書（工事中その 1）」で報告済であるが、本報告では春季分を加えるかたちで整理した。

(1) 環境の状況

a) 動物相等

(a) 哺乳類

哺乳類の調査結果を表 6.4-14 に示す。

夏季調査では 1 目 1 科 2 種、秋季調査では 1 目 1 科 2 種、冬季調査では 1 目 1 科 2 種、春季調査では 1 目 1 科 2 種、全季を通じて 1 目 1 科 2 種の哺乳類が確認された。

工事区域内を含む広範囲で、ホンダヌキおよびアカギツネの糞が確認され、特に七北田川の堤防上にはホンダヌキのため糞が確認された。また、工事区域内に設置したセンサーカメラでは、ホンダヌキが撮影された。

(b) 鳥類

鳥類の調査結果を表 6.4-15 に示す。

夏季調査では 9 目 19 科 30 種、秋季調査では 10 目 20 科 32 種、冬季調査では 9 目 19 科 42 種、春季調査では 10 目 25 科 46 種、全季を通じて 13 目 28 科 69 種の鳥類が確認された。

工事区域内ではハシブトガラス、スズメ、ハクセキレイといった市街地等でも見られる機会の多い種の他、草地や丘陵地等で見られるムクドリや、猛禽類であるトビの飛翔が確認された。

工事区域周辺 200m の範囲では、工事区域内で確認された種に加え、ヒバリ、モズ、カワラヒワといった、主に草地や林縁等において見られる種が確認された。

蒲生干潟・七北田川では、国指定の天然記念物で海辺の環境を生息の場とするコクガンの群れや、猛禽類のミサゴ、ノスリ、チョウゲンボウの飛翔が確認された。また、その他にオカヨシガモ、ホオジロガモ、コサギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、オオセグロカモメ等の水辺において見られる種が確認された他、干潟の後背および七北田川左岸河川敷にあるヨシ原ではオオヨシキリ、コヨシキリ、ホオアカ、アオジ等が確認された。

(c) 爬虫類・両生類

爬虫類は、全調査期間を通して確認されなかった。

両生類は、全調査期間を通して確認されなかった。

なお、評価書時の現地調査では、両生類が 1 種（ニホンアマガエル）確認されていた（表 6.4-16）。

(d) 昆虫類

昆虫類の調査結果を表 6.4-17 に示す。

夏季調査では 9 目 34 科 53 種、秋季調査で 8 目 29 科 56 種、春季調査で 5 目 28 科 45 種、全季を通じて 9 目 57 科 111 種の昆虫が確認された。

工事区域内では、エンマコオロギ、ショウリョウバッタ、ベニシジミ、セアカヒラタゴミムシ、ヒメコガネ、トビイロシワアリ等、草地や公園等において一般的に見られる種が確認された。

工事区域周辺 200m の範囲では特に貞山堀の草地において、オオハサミムシ、モンキチョウ、フタモンアシナガバチなど、草地において見られる種が多く確認された。

(e) 動物生息地として重要な地域

現地調査の結果、工事区域の東～南にかけて分布する蒲生干潟、七北田川で確認された種が多く、評価書時の現地調査と同様、これらのエリアが動物、特に鳥類の生息地として重要な地域であることが確認された。

(f) 評価書現地調査時との確認種数の比較（参考）

事後調査で確認された動物の種数について、評価書時の現地調査結果と事後調査結果の比較を表 6.4-13 に示す。

通年の比較では、哺乳類は 2 種で増減なし、鳥類は 10 種減少（79 種→69 種）、両生類は 1 種減少（1 種→0 種）、昆虫類は 24 種減少（135 種→111 種）となった。

なお、事後調査において初めて確認された種（鳥類 9 種、昆虫類 56 種）もあること、評価書現地調査時にはメダイチドリ、チュウシャクシギ、トウネンなど日本を經由して北方へ渡る渡り鳥や、オツネントンボなどの一部の昆虫類については春季のみなど、1 季のみ確認された種もあることから、確認種数の増減には、季節や年毎の自然変動による影響も一定程度含まれている可能性がある。

表 6.4-13 各分類群の評価書調査結果と事後調査結果の比較（種数）

		夏季	秋季	冬季	春季	合計
哺乳類	事後調査	1 目 1 科 2 種	1 目 1 科 2 種	1 目 1 科 2 種	1 目 1 科 2 種	1 目 1 科 2 種
	評価書調査	1 目 1 科 1 種	1 目 1 科 2 種	1 目 1 科 2 種	1 目 1 科 2 種	1 目 1 科 2 種
鳥類	事後調査	9 目 19 科 30 種	10 目 20 科 32 種	9 目 19 科 42 種	10 目 25 科 46 種	13 目 28 科 69 種
	評価書調査	7 目 18 科 28 種 (8 目 21 科 34 種)	11 目 25 科 49 種	11 目 21 科 47 種	10 目 22 科 41 種	11 目 27 科 79 種
両生類	事後調査	0 目 0 科 0 種	0 目 0 科 0 種	—	0 目 0 科 0 種	0 目 0 科 0 種
	評価書調査	0 目 0 科 0 種	0 目 0 科 0 種	—	1 目 1 科 1 種	1 目 1 科 1 種
昆虫類	事後調査	9 目 34 科 53 種	8 目 29 科 56 種	—	5 目 28 科 45 種	9 目 57 科 111 種
	評価書調査	8 目 32 科 67 種	9 目 35 科 51 種	—	11 目 38 科 67 種	11 目 60 科 135 種

爬虫類は、評価書時の現地調査、事後調査ともに確認されていない。

6.4-10
(102)

1 凡例は以下のとおりである。なお、春季の事後調査が未実施（今後予定）である。
「○」又は「●」…確認、「-」…未確認
（「○」は場所毎の確認結果、「●」は場所を限定しない確認結果であるため、記号を変えている）
2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当しない場所での確認である。
3 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 5 年度生物リスト」（国土交通省、令和 5 年度）に準拠した。

表 6.4-15 (1) 確認種の一覧（鳥類）

目名	科名	種名 ³	現地調査での確認状況 ^{1 2}																				通年 事後調査	評価書時の 調査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
			夏季					秋季					冬季					春季																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
			計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体			評価書時の調査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
カモ目	カモ科	コクガン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表 6.4-15 (2) 確認種の一覧（鳥類）

目名	科名	種名 ³	現地調査での確認状況 ^{1 2}																								通年 事後調査	評価書時の調査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
			夏季						秋季						冬季						春季																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
			計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
チドリ目	シギ科	メダイチドリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表 6.4-15 (3) 確認種の一覧（鳥類）

目名	科名	種名 ³	現地調査での確認状況 ^{1 2}																															
			夏季						秋季						冬季						春季						通年							
			計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査		
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●			
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	-	-	○	-	-	●	●	-	-	-	-	-	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●		
		ハヤブサ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	●	-	●	●		
スズメ目	モズ科	モズ	-	-	-	-	-	-	●	-	○	○	-	-	-	●	●	-	-	-	○	-	●	●	-	-	-	-	-	●	●	●		
	カラス科	オナガ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	●		
		ハシボソガラス	○	○	○	-	-	●	●	○	○	-	-	-	-	●	●	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	-	○	●	●	●		
		ハシブトガラス	○	○	○	○	○	-	●	●	○	○	○	○	○	○	●	●	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	●	●	●		
		ヒバリ科	ヒバリ	-	-	○	○	-	●	●	-	-	○	○	○	-	●	●	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	●	●	●	
	ツバメ科	ショウドウツバメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●		
		ツバメ	-	-	○	○	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	●	●	●		
	ウグイス科	ウグイス	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	○	-	-	●	-	-	○	-	-	●	-	●	●	
	ヨシキリ科	オオヨシキリ	-	-	○	○	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	○	○	○	-	-	●	-	●	●		
		コヨシキリ	-	-	-	○	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●		
	セッカ科	セッカ	-	-	○	○	-	●	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	○	○	-	○	○	-	○	●	-	●	●	●		
	ムクドリ科	ムクドリ	-	-	-	-	-	-	●	○	○	-	-	-	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	●	-	●	●	
	ツグミ科	ツグミ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	
	ヒタキ科	ジョウビタキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	●	●	
		イソヒヨドリ	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	●	-	●	●	
		ノビタキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	
	スズメ科	スズメ	○	○	-	-	○	●	●	○	○	-	-	-	-	●	●	-	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●
	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○	-	-	●	●	○	○	○	○	-	●	●	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●
		セグロセキレイ	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	
		タヒバリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	
	アトリ科	カワラヒワ	-	-	○	○	○	●	●	○	○	-	-	-	-	●	●	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●
	ホオジロ科	ホオジロ	-	-	○	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●
		ホオアカ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	●	●	●	
		アオジ	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	
		オオジュリン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	●	

表 6.4-15 (4) 確認種の一覧 (鳥類)

目名	科名	種名 ³	現地調査での確認状況 ^{1 2}																														
			夏季							秋季							冬季							春季							通年		
			計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査	
ハト目	ハト科	カワラバト（ドバト）	-	-	-	-	-	-	●	-	○	-	-	-	●	●	○	○	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-	●	●	●	●
13 目	28 科	69 種 ⁴	5	6	27	19	8	30	42	7	13	24	18	5	32	49	3	11	32	33	15	42	47	5	16	37	27	18	46	41	69	79	

- 1 凡例は以下のとおりである。
「○」又は「●」…確認、「-」…未確認（「○」は場所毎の確認結果、「●」は場所を限定しない確認結果であるため、記号を変えている）
2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。
3 種名は原則として「日本鳥類目録 改定第 8 版」（日本鳥学会、令和 6 年度）に準拠したが、一部については図鑑等の文献を参考にした。
4 網掛けされている種は、評価書調査時に確認されたが、事後調査では未確認の種である（最下段の「○種」には含めていない）。

表 6.4-16 確認種の一覧（爬虫類・両生類）

目名	科名	種名 ³	現地調査での確認状況 ^{1 2}																						
			夏季					秋季					冬季					春季					通年		
			工事区域内	工事区域周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	工事区域内	工事区域周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	工事区域内	工事区域周辺	蒲生干潟	七北田川	その他	全体	評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査
無尾目	アマガエル	ニホンアマガエル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
1 目	1 科	0 種 ⁴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

1 凡例は以下のとおりである。
「○」又は「●」…確認、「-」…未確認
(「○」は場所毎の確認結果、「●」は場所を限定しない確認結果であるため、記号を変えている)
2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図 6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。
3 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和 5 年度生物リスト」(国土交通省、令和 5 年度)に準拠した。
4 網掛けされている種は、評価書調査時に確認されたが、事後調査では未確認の種である(最下段の「○種」には含めていない)。

表 6.4-17 (1) 確認種の一覧（昆虫類）

目名	科名	種名 ³	現地調査での確認状況 ^{1 2}														
			夏季				秋季				春季				通年		
			計画地内	計画地周辺	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	全体	評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査	
トンボ（蜻蛉）	アオイトトンボ	オツネイトンボ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
	イトトンボ	アオモンイトトンボ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
		ムスジイトトンボ	-	-	-	●	-	○	●	-	-	-	-	-	●	●	
	ヤンマ	ギンヤンマ	-	-	-	-	-	○	●	●	-	-	-	-	●	●	
	トンボ	シオカラトンボ	-	○	●	●	-	○	●	-	-	-	-	-	●	●	
		ウスバキトンボ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
		ナツアカネ	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	●	-	
		アキアカネ	-	-	-	●	○	○	●	●	-	-	-	-	●	●	
		ノシメトンボ	-	-	-	-	○	○	●	-	-	-	-	-	●	-	
カマキリ（螳螂）	カマキリ	チョウセンカマキリ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	●	-		
ゴキブリ（網翅）	ミゾガシラシロアリ	ヤマトシロアリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●		
ハサミムシ（革翅）	マルムネハサミムシ	ハマベハサミムシ	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	●	-	
	オオハサミムシ	オオハサミムシ	-	○	●	●	-	-	-	●	-	-	-	●	●	●	
	-	ハサミムシ目の一種	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
バッタ（直翅）	ツユムシ	セスジツユムシ	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
		ツユムシ	○	○	●	●	○	○	●	●	-	-	-	-	●	●	
	キリギリス	ウスイロササキリ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
	ケラ	ケラ	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
	マツムシ	カンタン	-	○	●	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	
	コオロギ	ハラオカメコオロギ	○	○	●	●	○	○	●	●	-	-	-	-	●	●	
		エンマコオロギ	○	○	●	●	○	○	●	●	-	-	-	-	●	●	
	ヒバリモドキ	マダラスズ	-	-	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
		シバスズ	-	-	-	●	-	○	●	●	-	-	-	-	●	●	
	バッタ	ショウリョウバッタ	○	○	●	●	-	○	●	●	-	-	-	-	●	●	
		マダラバッタ	-	-	-	●	-	○	●	-	-	-	-	-	●	●	
		クルマバッタモドキ	-	○	●	-	-	○	●	-	-	-	-	-	●	-	
	オンブバッタ	オンブバッタ	-	○	●	●	-	○	●	-	-	-	-	-	●	●	
	ヒシバッタ	ハラヒシバッタ	-	-	-	●	-	-	-	●	-	-	-	●	-	●	
	ノミバッタ	ノミバッタ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
カメムシ（半翅）	アブラムシ	ヒゲナガアブラムシ属の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		アブラムシ科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	●	-	
	アワフキムシ	ハマベアワフキ	-	○	●	-	-	○	●	-	-	-	-	-	●	-	
	ヨコバイ	ヒメヨコバイ亜科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-	
		ヨコバイ科の一種	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
	サシガメ	ヨコヅナサシガメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		ヤニサシガメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
	グンバイムシ	アワダチソウグンバイ	○	○	●	-	-	-	-	●	-	○	●	-	●	●	
	カスミカメムシ	ナカグロカスミカメ	○	-	●	●	-	-	-	●	-	-	○	●	-	●	●
		ツマグロアオカスミカメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
		シラゲヨモギカスミカメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
		ヒョウタンカスミカメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
		アカスジカスミカメ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	○	●	-	●	●
		ウスモンミドリカスミカメ	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	○	●	-	●	-
		イネホソミドリカスミカメ	-	-	-	-	○	○	●	-	○	○	●	-	●	-	●
	マキバサシガメ	ハネナガマキバサシガメ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
	ホシカメムシ	クロホシカメムシ	○	○	●	●	-	-	-	-	○	○	●	-	●	●	
	ヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	-	-	-	-	-	○	●	-	-	-	-	-	●	-	●
		ヘリカメムシ科の一種	-	-	-	●	-	-	-	-	-	○	●	-	●	●	●

表 6.4-17 (2) 確認種の一覧 (昆虫類)

目名	科名	種名 ³	現地調査での確認状況 ^{1 2}														
			夏季				秋季				春季				通年		
			計画 地内	計画 地周辺	全体	評価 書時の 調査	計画 地内	計画 地周辺	全体	評価 書時の 調査	計画 地内	計画 地周辺	全体	評価 書時の 調査	事後 調査	評価 書時の 調査	
カメムシ（半翅）	ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ	-	-	-	-	○	-	●	-	-	○	●	-	●	-	
	ナガカメムシ	ヒメオオメナガカメムシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-	
		ウスイロヒラタナガカメムシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		ツマベニヒメナガカメムシ	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	●	-	
		セスジヒメナガカメムシ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
		ヒメナガカメムシ	-	○	●	-	○	○	●	●	-	○	●	●	●	●	
		クロアシホソナガカメムシ	-	-	-	-	-	○	●	-	-	-	-	-	●	-	
		ツチカメムシ	ヒメツチカメムシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	●	●	●
	ツチカメムシ		○	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
	カメムシ	ブチヒゲカメムシ	-	○	●	●	○	-	●	●	-	○	●	-	●	●	
		ナガメ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		トゲシラホシカメムシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		シラホシカメムシ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
		アカスジカメムシ	○	○	●	●	-	-	-	●	-	-	-	-	●	●	
		イチモンジカメムシ	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
		カメムシ科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		マルカメムシ	マルカメムシ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	●	-
		アメンボ	ヒメアメンボ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
	ミズムシ（昆）	ハラグロコミズムシ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
	アミメカゲロウ（脈翅）	クサカゲロウ	クモンクサカゲロウ	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-
		スズキクサカゲロウ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
チョウ（鱗翅）	ハマキガ	ヨモギネムシガ	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
		アカスジキイロハマキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
		チャノコカクモンハマキ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●
		ヒメハマキ亜科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-	
		ハマキガ科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-	
	セセリチョウ	イチモンジセセリ	-	-	-	-	○	○	●	●	-	-	-	●	●	●	
		チャバネセセリ	-	-	-	-	-	○	●	-	-	○	●	-	●	-	
	シジミチョウ	ウラギンシジミ	-	-	-	-	-	○	●	-	-	-	-	-	●	-	
		ツバメシジミ	○	○	●	●	-	○	●	-	-	-	-	●	●	●	
		ウラナミシジミ	-	-	-	-	-	○	●	-	-	-	-	-	●	-	
		ベニシジミ	○	-	●	●	○	-	●	●	-	-	-	●	●	●	
		ヤマトシジミ本土亜種	-	-	-	-	○	○	●	-	-	-	-	-	●	-	
	タテハチョウ	キタテハ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
		ヒメアカタテハ	-	-	-	-	-	○	●	-	-	-	-	-	●	-	
	シロチョウ	モンキチョウ	-	○	●	●	-	○	●	●	-	○	●	●	●	●	
		キタキチョウ	-	-	-	-	○	○	●	●	-	-	-	-	●	●	
		モンシロチョウ	-	-	-	-	-	○	●	-	-	-	-	-	●	-	
	ツトガ	ニカメイガ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
		ツトガ亜科の一種	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
		ツトガ科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
	メイガ	キンモントガリメイガ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
		アカマダラメイガ	-	-	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
	シャクガ	ウスオエダシャク	-	-	-	●	-	-	-	●	-	-	-	●	-	●	
		ヒメシャク亜科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		エダシャク亜科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		シャクガ科の一種	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
	スズメガ	セスジスズメ	-	-	-	-	-	○	●	-	-	-	-	-	●	-	

表 6.4-17 (3) 確認種の一覧 (昆虫類)

目名	科名	種名 ³	現地調査での確認状況 ^{1 2}														
			夏季				秋季				春季				通年		
			計画地内	計画地周辺	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	全体	評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査	
チョウ（鱗翅）	ヤガ	アカフヤガ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
		ツメクサガ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		クロクモヤガ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
		オオシラナミアツバ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
		スジシロキヨトウ	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
		ヨモギガ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		スジキリヨトウ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		キリガ亜科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		ヤガ科の一種	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
	-	小型蛾類	○	○	●	●	-	-	-	-	-	○	●	-	●	●	
-	不明蛾類	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●		
ハエ（双翅）	ヒメガガンボ	ヒメガガンボ科の一種	○	○	●	-	○	-	●	-	-	-	-	●	●	●	
	ガガンボ	ガガンボ亜科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
	ユスリカ	ユスリカ科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	●	●	●	●	
	ムシヒキアブ	アオメアブ	-	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	
	アシナガバエ	アシナガバエ科の一種	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	
	ハナアブ	ナミホシヒラタアブ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
		ホソツヤヒラタアブ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
		ミナミヒメヒラタアブ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
		ホソヒメヒラタアブ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-	●
	ショウジョウバエ	ショウジョウバエ科の一種	-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	●	-	
	ヒロクチバエ	ダイズコンリュウバエ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
	クロバエ	ツماغロキンバエ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●
	イエバエ	イエバエ科の一種	-	-	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	●
	ニクバエ	ニクバエ科の一種	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	-	●
	-	ハエ亜目の一種	○	○	●	●	○	○	●	-	-	○	●	●	●	●	●
	コウチュウ（鞘翅）	オサムシ	コアオマルガタゴミムシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-
ニセマルガタゴミムシ			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
ケベリゴモクムシ			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-
オオアトボシアオゴミムシ			-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
アトボシアオゴミムシ			-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
セアカヒラタゴミムシ			-	-	-	●	○	○	●	●	-	-	-	-	-	●	●
ウスアカクロゴモクムシ			○	-	●	-	○	-	●	●	-	-	-	-	-	●	●
オオヒラタゴミムシ			-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-
ナガゴミムシ属の一種			-	-	-	-	-	○	●	-	-	-	-	-	-	●	-
キンナガゴミムシ			-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
マメゴモクムシ			-	-	-	-	○	○	●	-	-	-	-	-	-	●	-
ツヤマメゴモクムシ			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
ムネアカマメゴモクムシ			-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	-	●	-
ヨツモンコミズギワゴミムシ			-	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
ヒメツヤゴモクムシ			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
ハネカクシ			クロズトガリハネカクシ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		コガシラハネカクシ属の一種	○	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
		ヒメキノコハネカクシの一種	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
		ハネカクシ科の一種	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
コガネムシ		アオドウガネ	-	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
		ドウガネブイブイ	-	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●
		ヒメコガネ	○	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●

表 6.4-17 (4) 確認種の一覧 (昆虫類)

目名	科名	種名 ³	現地調査での確認状況 ^{1 2}														
			夏季				秋季				春季				通年		
			計画地内	計画地周辺	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	全体	評価書時の調査	計画地内	計画地周辺	全体	評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査	
コウチュウ（鞘翅）	コガネムシ	クロコガネ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
		アカビロウドコガネ	○	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	
		マメコガネ	-	○	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	
	コメツキムシ	サビキコリ	-	○	●	●	○	-	●	●	-	○	●	●	●	●	
		コガタヒメサビキコリ	-	-	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
		ヨツモンミズギワコメツキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		クロクシコメツキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	●	●	●	
		マダラチビコメツキ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	●	-	●	-	
		ジョウカイモドキ	キアシオビジョウカイモドキ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-
		テントウムシ	ナナホシテントウ	-	-	-	-	○	○	●	●	-	○	●	●	●	●
	ナミテントウ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
	ヒメカメノコテントウ		-	-	-	-	○	-	●	●	-	○	●	●	●	●	
	キスイムシ	キイロセマルキスイ	-	-	-	-	○	-	●	-	○	-	●	-	●	-	
		キスイムシ科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	●	-	
	ヒメマキムシ	ウスチャケシマキムシ	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
	ケシキスイ	クロハナケシキスイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-	
		ケシキスイ亜科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-	
	ホソヒラタムシ	ノコギリホソヒラタムシの一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-	
	ハナノミ	ヒメハナノミ亜科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-	
	ハムシ	アカバナカミナリハムシ	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●	
		アオバネサルハムシ	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
		ヨモギハムシ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
		クロトゲハムシ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	●	-	●	-	
		フタスジヒメハムシ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
		ブタクサハムシ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
		マルキバネサルハムシ	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	●	●	●	●	
		ゾウムシ	オオタコゾウムシ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●
	サビヒョウタンゾウムシ		○	-	●	●	-	-	-	●	-	○	●	●	●	●	
	ケチビコフキゾウムシ		-	-	-	-	○	-	●	-	-	-	-	-	●	-	
ハチ（膜翅）	ヒメバチ	ヒメバチ科の一種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
	アリ	クロオオアリ	○	-	●	●	-	-	-	●	-	○	●	●	●	●	
		クロヤマアリ	○	○	●	●	○	○	●	●	-	○	●	●	●	●	
		カワラケアリ	○	-	●	-	-	○	●	-	-	-	-	●	●	●	
		アメイロアリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	
		サクラアリ	-	-	-	-	-	○	●	-	-	-	-	-	●	-	
		トビイロシワアリ	○	○	●	●	○	○	●	●	○	○	●	●	●	●	
		アリ科の一種	-	-	-	-	-	○	●	-	○	-	●	-	●	-	
	スズメバチ	ミカドドロバチ本土亜種	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
		スズバチ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
		フタモンアシナガバチ本土亜種	-	○	●	●	-	-	-	-	-	○	●	●	●	●	
		コアシナガバチ	-	○	●	●	-	○	●	-	-	-	-	●	●	●	
		クロスズメバチ	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
	クモバチ	ムカシクモバチ亜科の一種	-	○	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
	アナバチ	サトジガバチ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	
		アナバチ科の一種	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	
	ハキリバチ	ハキリバチ科の一種	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	
ハチ亜目の一種		-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	●	-	●	-		
11 目	75 科	111 種 ⁴	23	44	53	67	32	40	56	51	12	39	45	67	111	135	

1 凡例は以下のとおりである。

- 「○」又は「●」...確認、「-」...未確認
(「○」は場所毎の確認結果、「●」は場所を限定しない確認結果であるため、記号を変えている)
- 2 「工事区域周辺」は工事区域周辺 200m の範囲を示す。
 - 3 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和 5 年度生物リスト」(国土交通省、令和 5 年度)に準拠したが一部については図鑑等の文献を参考にした。
 - 4 網掛けされている種は、評価書調査時に確認されたが、事後調査では未確認の種である(最下段の「○種」には含めていない)。

b) 注目すべき種の確認状況

現地調査で確認された種を対象に、表 6.4-11～表 6.4-12 に示す選定基準に基づいて、注目すべき種を抽出した。

抽出された注目すべき種の確認状況を、表 6.4-18（哺乳類）表 6.4-19（鳥類）表 6.4-20（両生類）表 6.4-21（昆虫類）に示す。また、注目すべき種の確認位置を図 6.4-2（哺乳類）図 6.4-3（鳥類）図 6.4-4（昆虫類）に示す。

抽出の結果、哺乳類 1 種（タヌキ）鳥類 20 種（コクガン、カイツブリ、シロチドリ、アカアシギ、オオセグロカモメ、コサギ、ミサゴ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ヒバリ、ツバメ、ウグイス、オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ホオジロ、ホオアカ、アオジ）昆虫類 2 種（ナツアカネ、アキアカネ）の注目すべき種が確認された。

表 6.4-18 哺乳類の注目すべき種の確認状況

No.	目名	科名	種名	現地調査での確認状況 ¹						選定基準等 ²											
										仙台市における保全上重要な種					レッドデータ等			蒲生地域での確認希少種			
				夏季	秋季	冬季	春季	通年	学術上重要種	減少種				環境指標種	国 RL(2020)	県 RL(2023)	天記・種保存				
				事後調査	評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査	事後調査		評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査	山地						西部丘陵地・田園	市街地	東部田園
1	ネコ(食肉)	イヌ	ホンドタヌキ	●	●	●	●	●	●	●	-	+	+	・	+	・	○	-	-	-	-
計	1 目	1 科	1 種	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0

1 凡例は以下のとおりである。

「○」又は「●」...確認、「-」...未確認

（「○」は場所毎の確認結果、「●」は場所を限定しない確認結果であるため、記号を変えている）

2 選定基準の記号は表 6.4-11 を参照。

表 6.4-19 鳥類の注目すべき種の確認状況

No.	目名	科名	種名	現地調査での確認状況 ¹										選定基準等 ²										蒲生地域での確認希少種			
														仙台市における保全上重要な種						レッドデータ等							
				夏季 事後調査	秋季 事後調査	冬季 事後調査	春季 事後調査	通年 事後調査	学術上重要な種	減少種					環境指標種	国RL(2020)	県RL(2024)	天記・種保存									
						山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜																	
1	カモ目	カモ科	コクガン	-	-	-	-	●	●	-	-	●	●	1,2,4	/	/	/	/	/	B	-	VU	VU	国天	-		
2	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	●	-	●	●	●	●	-	●	●	●	-	-	C	B	C	C	○	-	-	-	-	-		
3	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	-	●	-	-	-	-	-	●	-	●	1,4	C	C	B	B	-	○	-	VU	NT	-	-		
4			シロチドリ	-	●	-	-	-	●	-	-	●	●	1,4	/	/	/	-	B	○	VU	NT	-	-	○		
5		シギ科	アカアシシギ	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	1	/	/	-	C	C	-	VU	-	-	-	-		
6			ツルシギ	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	-	1,4	/	/	-	C	C	-	VU	NT	-	-		
7		カモメ科	オオセグロカモメ	●	●	●	-	●	●	-	●	●	●	-	-	-	-	-	-	-	-	NT	-	-	-	-	
8			コアジサシ	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	1,2,4	/	/	A	B	B	-	VU	VU	国際	-		
9	ペリカン目	サギ科	ゴイサギ	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	NT	-	-		
10			チュウサギ	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	1,2,4	-	C	C	C	C	-	NT	-	-	-	○		
11			コサギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-	/	C	B	C	C	○	-	NT	-	-	○		
12			カラシラサギ	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	●	1	/	/	/	-	C	-	NT	NT	-	-	-	
13	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1,4	-	+	+	+	+	+	○	NT	-	-	-	○	
14		タカ科	ハイタカ	-	-	-	●	-	●	-	-	-	●	1,4	C	C	C	C	C	-	NT	NT	-	-	-		
15			オオタカ	-	●	-	-	-	-	-	-	-	●	1,4	C	C	B	B	B	○	NT	NT	-	-	○		
16			ノスリ	-	●	-	●	●	●	●	●	●	●	-	-	+	+	+	+	+	○	-	-	-	-	-	
17	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	-	-	-	●	-	●	-	-	-	●	1,4	-	C	C	C	C	-	○	-	-	-	-	-	
18	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	●	●	●	●	-	●	-	●	●	●	1,4	/	C	B	C	B	-	-	-	-	-	○		
19	スズメ目		ハヤブサ	-	-	-	●	-	●	●	-	●	●	1,4	C	B	B	C	C	-	VU	-	-	国内	-		
20		モズ科	モズ	-	●	●	●	●	●	-	●	●	●	1	+	+	+	B	+	+	○	-	-	-	-	-	
21		ヒバリ科	ヒバリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-	-	-	C	B	C	C	○	-	-	-	-	○	
22		ツバメ科	ツバメ	●	●	-	-	-	-	●	●	●	●	-	-	-	C	C	C	C	-	○	-	-	-	-	
23		ウグイス科	ウグイス	-	●	-	●	-	●	●	-	●	●	1,4	+	+	+	C	C	C	○	-	-	-	-	-	
24		ヨシキリ科	オオヨシキリ	●	●	-	-	-	-	-	-	●	●	1,4	-	-	C	B	C	C	○	-	-	-	-	-	
25			コヨシキリ	●	●	-	-	-	-	-	-	-	●	●	1,4	-	-	C	A	B	B	○	-	NT	-	-	
26			セッカ科	セッカ	●	●	-	●	-	-	●	-	●	●	1,4	-	-	C	B	C	C	○	-	-	-	-	○
27			セキレイ科	セグロセキレイ	-	●	-	●	-	-	-	-	-	●	4	C	C	C	C	C	-	○	-	-	-	-	-
28			ホオジロ科	ホオジロ	●	●	-	●	●	●	●	●	●	●	-	+	+	+	B	C	C	○	-	-	-	-	-
29				ホオアカ	-	-	-	-	-	●	●	●	●	●	-	-	B	C	A	C	B	○	-	-	-	-	-
30				アオジ	-	●	-	●	●	●	●	●	●	●	-	-	C	C	C	C	C	-	-	-	-	-	-
計	8 目	18 科	20 種 ³	12;22	7;17	11;16	13;12	17;29						20	11	22	23	25	24	18	12	11	3		8		

1 凡例は以下のとおりである。

「○」又は「●」...確認、「-」...未確認

（「○」は場所毎の確認結果、「●」は場所を限定しない確認結果であるため、記号を変えている）

2 選定基準の記号は表 6.4-11 を参照。

3 網掛けされている種は、評価書調査時に確認されたが、事後調査では未確認の種である（最下段の「○種」には含めていない）。

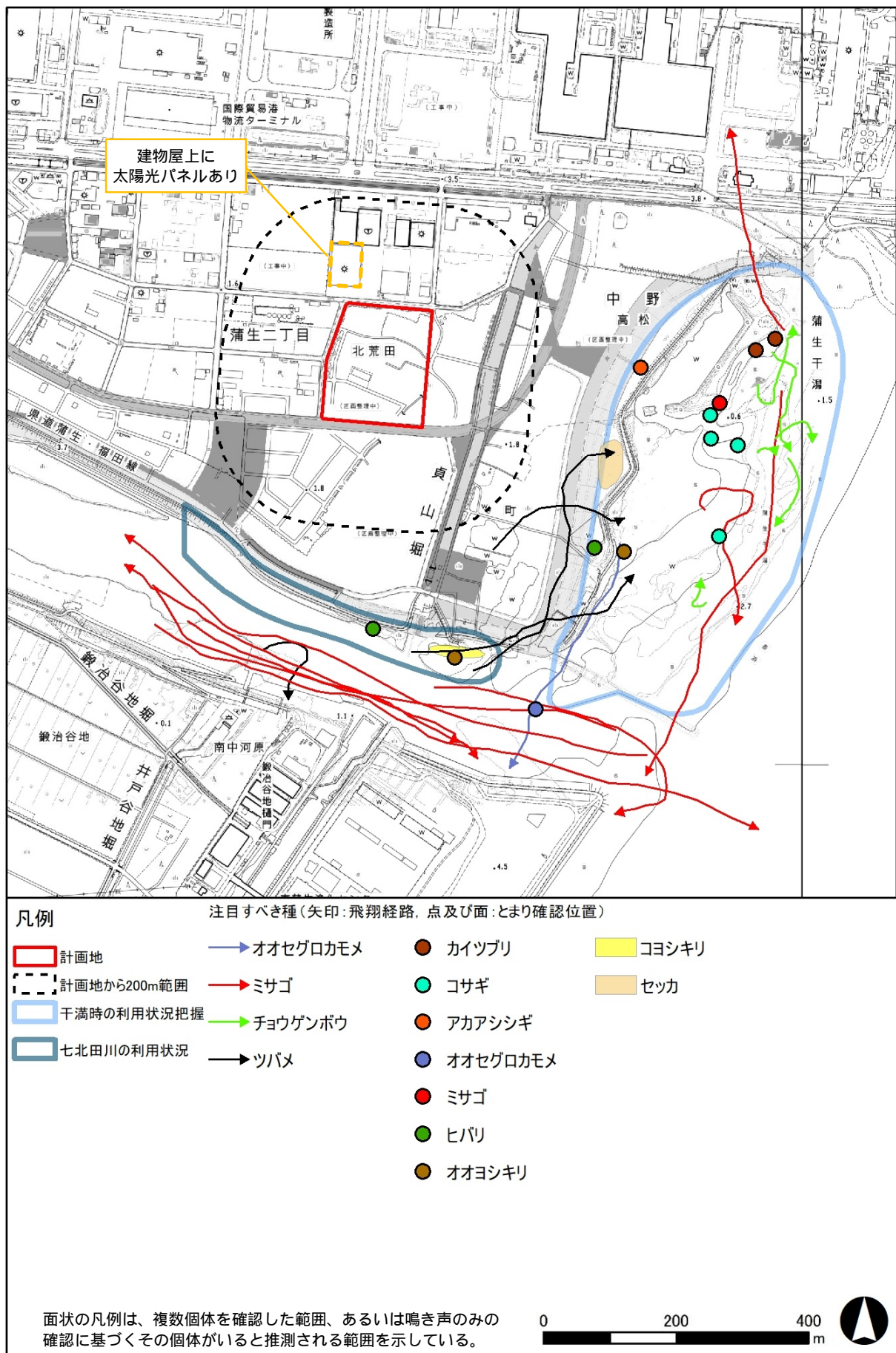


図 6.4-3 (1) 鳥類の注目すべき種の確認位置 (夏季)

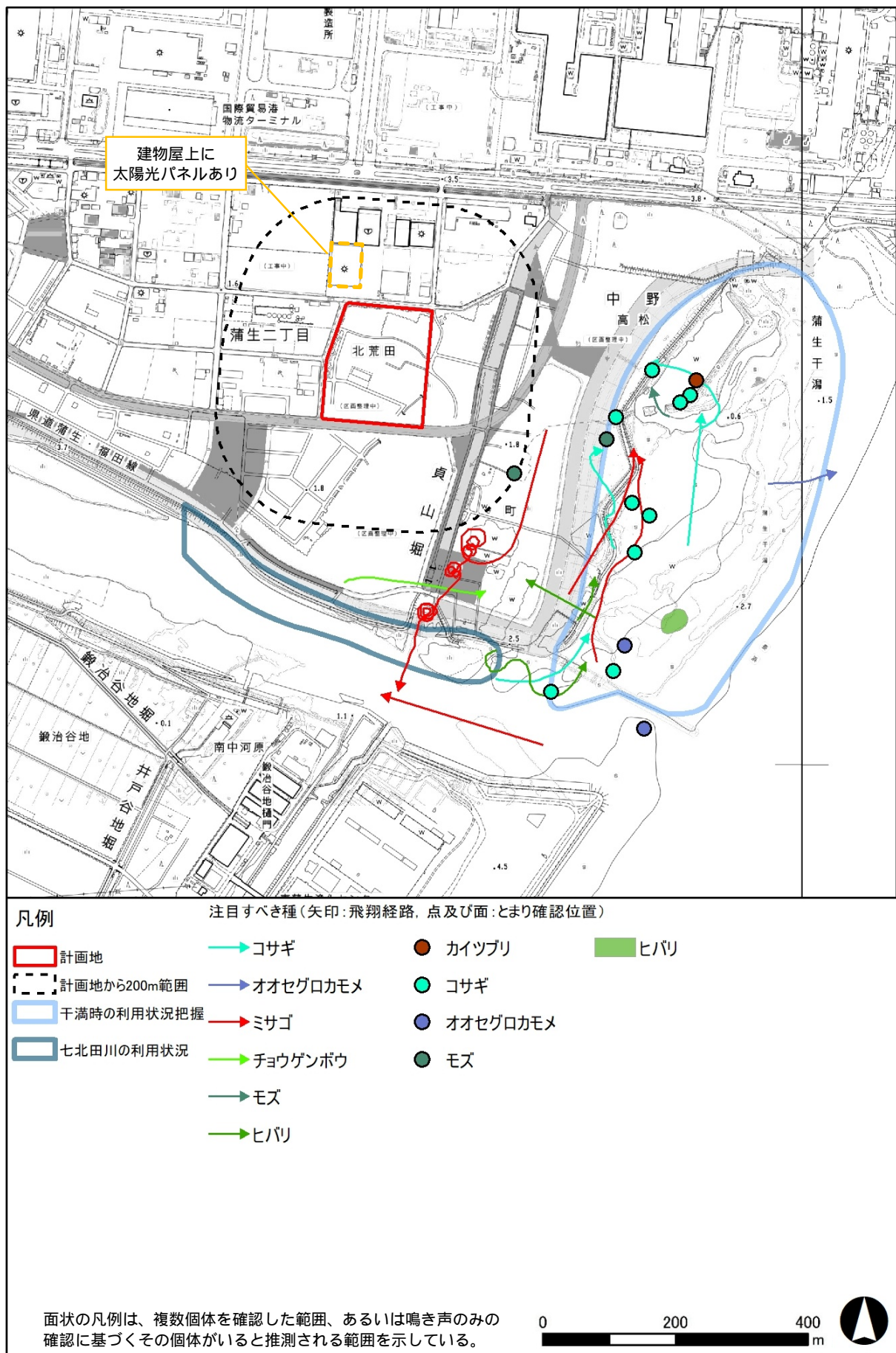


図 6.4-3 (2) 鳥類の注目すべき種の確認位置 (秋季)

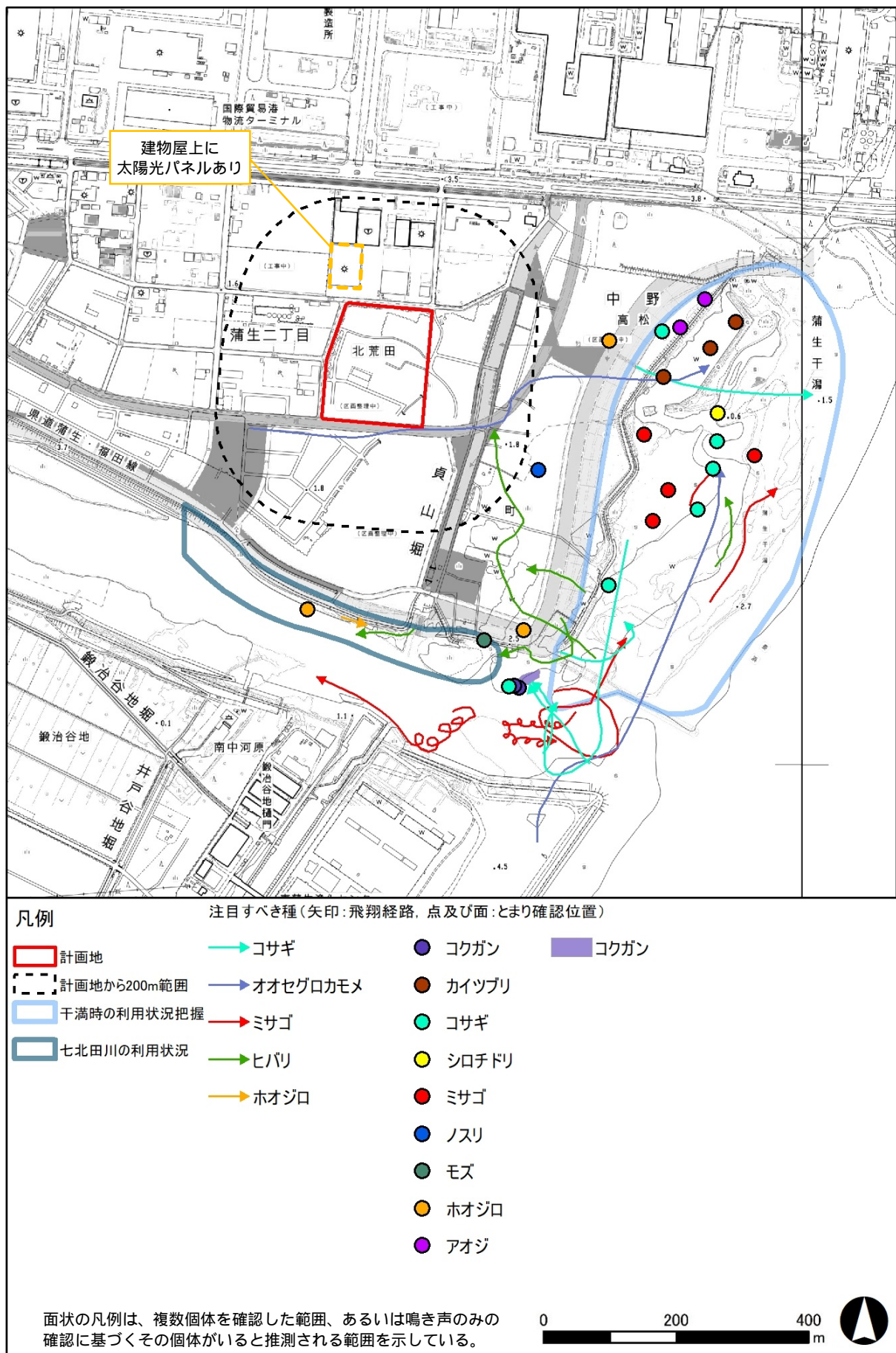


図 6.4-3 (3) 鳥類の注目すべき種の確認位置 (冬季)

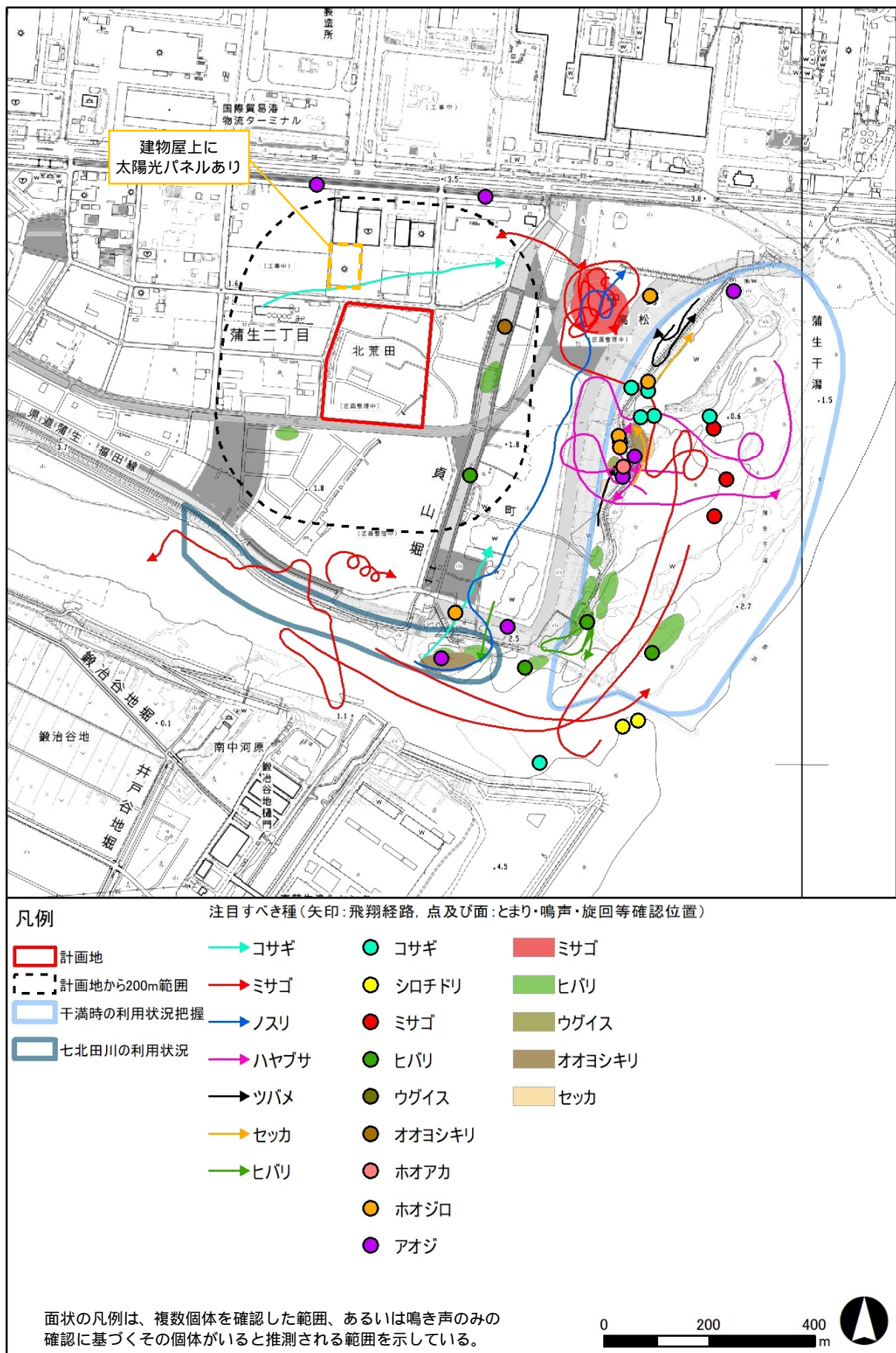


図 6.4-3 (4) 鳥類の注目すべき種の確認位置 (春季)

表 6.4-20 両生類の注目すべき種の確認状況

No.	目名	科名	種名	現地調査での確認状況 ¹					選定基準等 ²														
									仙台市における保全上重要な種					レッドデータ等			蒲生地域での確認希少種						
				夏季	秋季	冬季	春季	通年	学術上重要種	減少種					環境指標種	国 RL (2020)		県 RL (2023)	天記・種保存				
				事後調査	評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査	事後調査		評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査						山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園
1	無尾目	アマガエル	ニホンアマガエル	-	-	-	-	-	●	-	●	-	+	+	+	+	+	+	○	-	-	-	-
計	0 目	0 科	0 種 ³	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0

1 凡例は以下のとおりである。

「○」又は「●」…確認、「-」…未確認

(「○」は場所毎の確認結果、「●」は場所を限定しない確認結果であるため、記号を変えている)

2 選定基準の記号は表 6.4-11 を参照。

3 網掛けされている種は、評価書調査時に確認されたが、事後調査では未確認の種である(最下段の「○種」には含めていない)。

表 6.4-21 昆虫類の注目すべき種の確認状況

No.	目名	科名	種名	現地調査での確認状況 ¹								選定基準等 ²										
												仙台市における 保全上重要な種					レッド データ等			蒲生地域での確認希少種		
												学術上重要種	減少種					環境指標種	国 RL (2020)		県 RL (2023)	天記・種保存
				夏季	秋季	春季	通年	山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園		海浜									
				事後調査	評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査	事後調査	評価書時の調査													
1	トンボ	トンボ	ナツアカネ	-	-	●	-	-	-	●	-											
2			アキアカネ	-	●	●	●	-	-	●	●											
計	1 目	1 科	2 種	0	1	2	1	0	0	2	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0

1 凡例は以下のとおりである。

「○」又は「●」…確認、「-」…未確認

(「○」は場所毎の確認結果、「●」は場所を限定しない確認結果であるため、記号を変えている)

2 選定基準の記号は表 6.4-11 を参照。

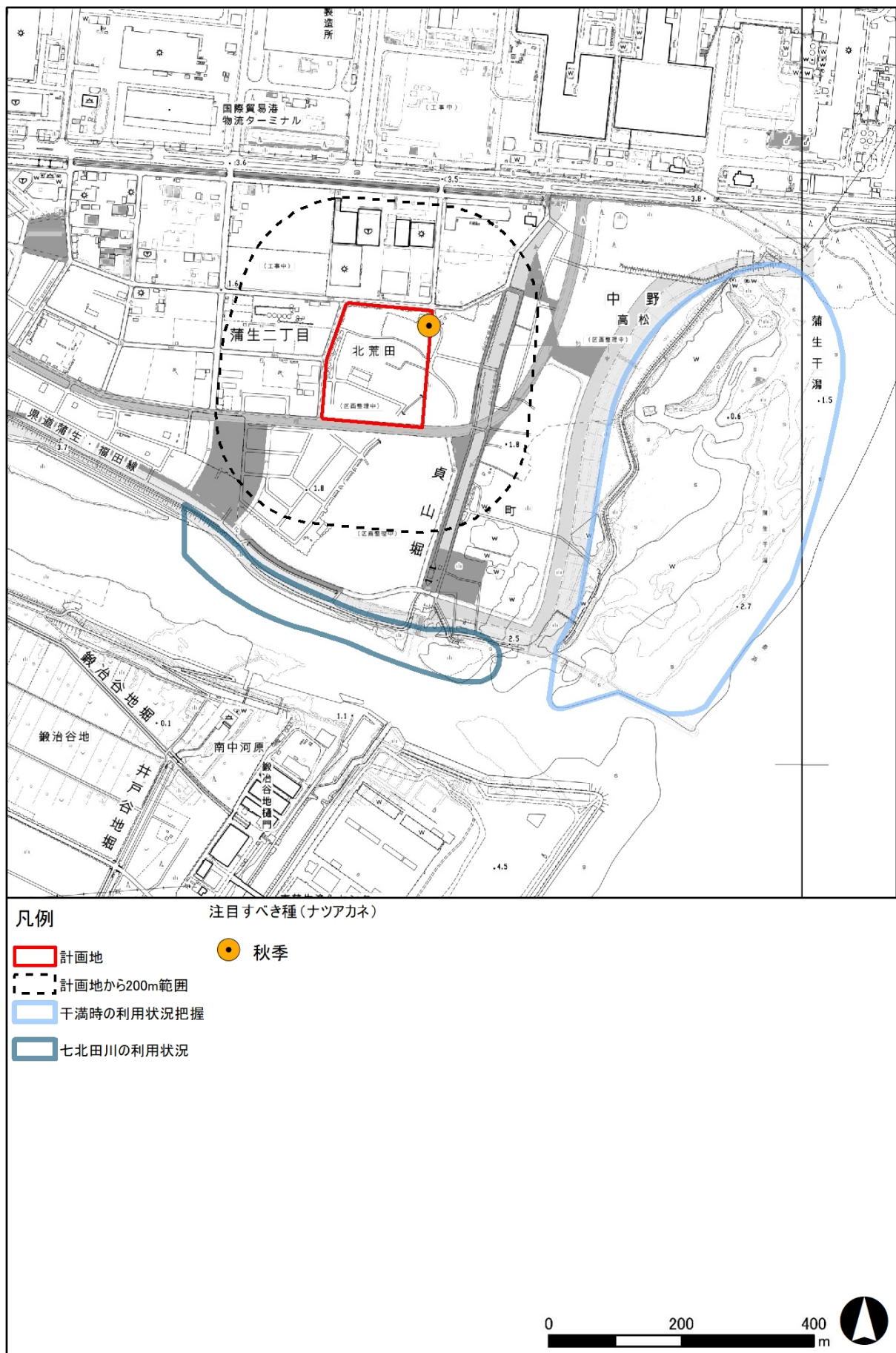


図 6.4-4 (1) 昆虫類の注目すべき種の確認位置 (ナツアカネ：夏季・秋季・春季)

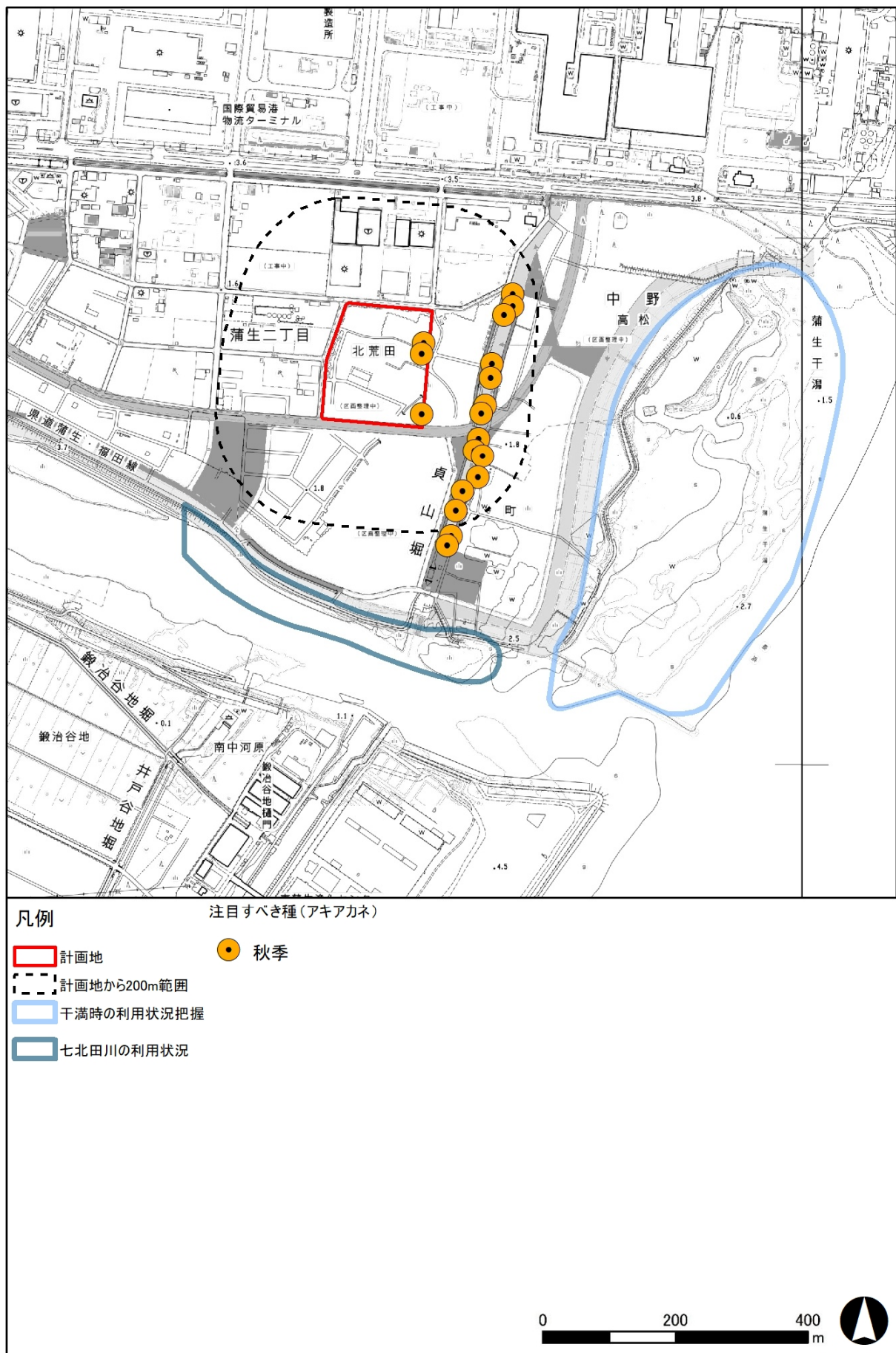


図 6.4-4 (2) 昆虫類の注目すべき種の確認位置 (アキアカネ：夏季・秋季・春季)

c) 注目すべき種の生態的特徴等

現地調査で確認された注目すべき種について、一般的な生態的特徴等を表 6.4-22（哺乳類）表 6.4-23（鳥類）表 6.4-24（両生類）表 6.4-25（昆虫類）に整理した。

表 6.4-22 注目すべき種の一般生態及び確認状況（哺乳類：ホンドタヌキ）

分布状況	【全国】北海道、本州、四国、九州、佐渡などほぼ全国に分布。 【仙台市内】泉区朴沢、泉パークタウン、青葉区蕃山、太白区秋保町境野、太白区茂庭御所周辺、太白山、宮城野区鶴ヶ谷、宮城野区蒲生、七北田川周辺、若林区種次、若林区藤塚、若林区荒井など。					
一般生態	郊外の住宅地周辺から山地まで広く生息するが、亜高山帯以上に生息することは少ない。鳥類、ノネズミなどの小型動物、昆虫、野生果実類などを採食する。排泄物を特定の場所に集中するタメ糞を行う。					
確認状況 ¹	夏季から春季にかけて工事区域内、工事区域周辺、蒲生干潟、七北田川で糞が確認され、秋季には工事区域内に設置したセンサーカメラにて活動個体が撮影された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	○	○	—
	秋季	○	○	○	○	—
	冬季	—	○	—	○	—
	春季	—	—	—	○	—

出典：「令和３年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、令和４年）

「日本の哺乳類〔改訂版〕」（阿部永他、平成 17 年）

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23(1) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：コクガン）

分布状況	【全国】主に北海道南部、東北地方北部の沿岸に冬鳥として渡来する。稀に東海地方まで南下することもある。 【仙台市内】東部海岸、七北田川河口、宮城野区蒲生、若林区井土など。					
一般生態	沿岸から沖合までの海水域に生息し、アマモやマコモなどの海草、岩礁にあるアオサ、イワノリなどの海藻を好んで採食する。小群でいることが多い。海を生活の場とする点が、内陸の湿地環境に依存する他のガン類とは異なる。					
確認状況 ¹	冬季に七北田川河口部で確認された。					
	場所	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	季節					
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	○	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：「令和3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、令和4年）

「日本の野鳥 590」（真木広造・大西敏一、平成18年）

「フィールド図鑑 日本の野鳥 第2版」（水谷高英・叶内拓哉、令和2年）

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (2) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：カイツブリ）

分布状況	【全国】本州中部以南で留鳥。北海道と本州北部には夏鳥として渡来する。 【仙台市内】朴沢、丸田沢、旗立、井戸浦、大沼、蒲生、若林区荒浜、若林区井土、若林区藤塚、青葉区花壇、あすと長町、広瀬川下流、青葉山、七北田公園、水の森公園、七北田川、名取川など。					
一般生態	主に平野部の池、湖沼、河川などに生息し、繁殖期にはつがいで縄張りをもつ。アシの茎などに水に浮いているような巣をつくる。巧みに潜水して主に小魚などを捕食する。					
確認状況 ¹	夏季から冬季にかけて蒲生干潟等で確認された。					
	場所	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	季節					
	夏季	—	—	○	○	—
	秋季	—	—	○	—	—
	冬季	—	—	○	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (3) 注目すべき種の一般生態及び確認状況 (鳥類: イカルチドリ)

分布状況	【全国】 本州～九州で留鳥。北海道では夏鳥。南西諸島では少数が越冬する。 【仙台市内】 宮城野区岡田、若林区荒井、若林区大沼、若林区井土など。					
一般生態	砂礫地のある河川、池、湖沼、水田などに生息し、干潟や海岸に出ることは少ない。繁殖期以外は小群で生活し、水際を歩いて水生の昆虫類やミミズ類などの小動物を捕食するが、他のチドリ類ほどは歩き回らない。					
確認状況 ¹	今年度は確認されなかった。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図 (図 6.4-1) で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲 (河口、河川敷含む)。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である (本種は該当なし)。

表 6.4-23 (4) 注目すべき種の一般生態及び確認状況 (鳥類: シロチドリ)

分布状況	【全国】 ほぼ全国で留鳥または漂鳥。北海道など北日本では夏鳥として渡来する。関東地方以西では越冬個体が多い。 【仙台市内】 名取川、井土浦、荒浜、蒲生など。					
一般生態	河口、海岸の砂浜、干潟、河川、埋立地などに生息する。地表面を忙しく動き回り、主に小型の昆虫類やゴカイなどの底生動物を捕食する。					
確認状況 ¹	冬季に蒲生干潟、春季に七北田川で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	○	—	—
	春季	—	—	—	○	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図 (図 6.4-1) で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲 (河口、河川敷含む)。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である (本種は該当なし)。

表 6.4-23 (5) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：アカアシシギ）

分布状況	【全国】旅鳥。北海道東部では夏鳥として繁殖し、九州以南では越冬する個体もいる。 【仙台市内】若林区井土浦、宮城野区蒲生、若林区大沼、宮城野区赤沼など。					
一般生態	水田、湿地、ハス田、河川、池、干潟などに生息し、浅い水辺などで昆虫類の幼虫や甲殻類などを食べる。					
確認状況 ¹	夏季に蒲生干潟で確認された。					
	場所					
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	○	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (6) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ツルシギ）

分布状況	【全国】全国に旅鳥として渡来する。秋の渡り期よりも春の渡り期に多く渡来する傾向がある。近年はハス田などの減少に伴い、渡来数が減っている。 【仙台市内】宮城野区岡田、若林区荒井、若林区大沼、若林区井土など。					
一般生態	水田、湿地、ハス田、河川、湖沼、池等に生息し、干潟などの海水域に入することは稀である。水場を歩き回り、水生の昆虫類や貝類、ミミズ類などの小動物や微生物を捕食する。腹部に水面が触れるほどの水深の場所でも採餌を行う。					
確認状況 ¹	今年度は確認されなかった。					
	場所					
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (7) 注目すべき種の一般生態及び確認状況 (鳥類: オオセグロカモメ)

分布状況	【全国】留鳥または漂鳥であり、北海道と東北地方北部で繁殖する。冬に南下する個体もいるため、ほぼ全国で見られるが、西南日本では少ない。 【仙台市内】宮城野区蒲生、若林区荒浜、若林区井土、若林区藤塚、七北田川、広瀬川、青葉区花壇、青葉山、太白区袋原、太白区大野田、あすと長町、名取川など。					
一般生態	沖合、沿岸、港、河口などに生息する。群れで生活し、断崖や砂浜の海岸線などを岸に沿って飛んでいることが多い。動物質のものなら何でも捕食し、繁殖期には他の鳥の卵や雛も食べる。					
確認状況 ¹	夏季から冬季にかけて蒲生干潟や七北田川等で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	○	○	—
	秋季	—	—	○	○	—
	冬季	—	○	○	○	○
	春季	—	—	—	—	—

出典: 表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図 (図 6.4-1) で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲 (河口、河川敷含む)。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は工事区域周辺 200m と蒲生干潟の間で確認された。

表 6.4-23 (8) 注目すべき種の一般生態及び確認状況 (鳥類: コアジサシ)

分布状況	【全国】夏鳥として本州以南に渡来する。繁殖適地の減少に伴い個体数は減少している。 【仙台市内】名取川、広瀬川、井土浦、大沼、蒲生など。					
一般生態	海岸、港、河口、河川、湖沼、沼地などに生息する。繁殖は埋立地の空き地や砂浜、河川の中州などで行われる。頻繁に水面にダイビングし、主に魚類を捕食する。					
確認状況 ¹	今年度は確認されなかった。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典: 表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図 (図 6.4-1) で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲 (河口、河川敷含む)。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である (本種は該当なし)。

表 6.4-23 (9) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（ゴイサギ）

分布状況	【全国】本州以南に留鳥として広く分布し、東北地方以北では夏鳥、南西諸島では冬鳥。 【仙台市内】青葉山、太白山、名取川、広瀬川、丸田沢緑地、蒲生海岸など					
一般生態	海岸、湖沼、河川などに生息する。繁殖期には平地から丘陵地の林にコロニーをつくり、集団繁殖を行う。					
確認状況 ¹	今年度は確認されなかった。					
	場所					
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は兩岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (10) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：チュウサギ）

分布状況	【全国】本州以南に夏鳥として渡来し、西南日本では一部が越冬する。 【仙台市内】広瀬川、名取川、天神沢、大沼、赤沼、蒲生二木、蒲生海岸、宮城野区岩切、若林区荒浜、若林区井土、若林区藤塚、泉パークタウン、三神峯公園、太白区茂庭御所など。					
一般生態	草地、水田、湿地、湖沼、河川などに生息するが、水辺よりも草地を好む傾向にある。主に昆虫や両生類、魚類を捕食する。繁殖期にはコサギやダイサギ、アマサギなどの群れとともに集団繁殖を行う。					
確認状況 ¹	今年度は確認されなかった。					
	場所					
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は兩岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (11) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：コサギ）

分布状況	【全国】本州以南で留鳥。南西諸島では冬鳥。一部の個体は東南アジアで越冬する。 【仙台市内】広瀬川、名取川、天神沢、大沼、赤沼、蒲生二木、蒲生海岸、宮城野区岩切、宮城野区苦竹、若林区荒浜、若林区藤塚、若林区井土、七北田川、太白区根岸町、あすと長町周辺など。					
一般生態	水田、河川、湖沼、湿地、干潟など水辺に広く生息し、主として魚類を捕食する。繁殖期には他のサギ類が集まるコロニーに混じって集団繁殖を行う。非繁殖期には群れで行動することが多い。					
確認状況 ¹	夏季から春季にかけて蒲生干潟等で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	○	○	—
	秋季	—	—	○	○	—
	冬季	—	—	○	○	—
	春季	—	○	○	○	○

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (12) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：カラシラサギ）

分布状況	【全国】旅鳥、またはまれな冬鳥として渡来する。各地で記録があるが、日本海側の島嶼や九州以南での記録が多い。朝鮮半島周辺と中国南部のみに分布する、世界的にも数が少ない希少種。 【仙台市内】広瀬川、名取川、蒲生など。					
一般生態	海岸、河口、干潟、河川、水田、湿地などに生息する。本種は頸から上を斜めに傾けて伸ばし、小走りで小魚などを捕食することが多い。1羽で行動し、海岸や河口、干潟などでは、潮の干満に合わせて活動する。					
確認状況 ¹	今年度は確認されなかった。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (13) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ミサゴ）

分布状況	【全国】ほぼ全国で留鳥であるが、冬に海が氷結する地域の個体は暖地へ移動する。 【仙台市内】宮城野区蒲生、若林区荒浜、若林区井土、若林区藤塚、七北田川、広瀬川、青葉山、青葉区川内、泉パークタウン、七北田公園、水の森公園、泉区朴沢、三神峯公園、竜の口橋梁周辺など。					
一般生態	海岸付近や内陸の河川、湖沼に生息する。水面上空でホバリングを行い、水面に飛び込み魚類を捕食する。多くは1～2羽で生活する。					
確認状況 ¹	年間を通じて工事区域周辺や蒲生干潟等で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	○	○	○
	秋季	—	—	○	○	—
	冬季	—	—	○	○	○
	春季	—	○	○	○	○

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種は夏季に蒲生干潟の北側をさらに北に向かって飛翔する様子などが確認された。

表 6.4-23 (14) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ハイトカ）

分布状況	【全国】四国以北では留鳥。一部の個体が冬に九州以南へ渡り越冬する。また、10月頃に日本列島へ越冬のために渡来する大陸型の個体群も存在する。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、ネッタ峠（作並 - 秋保）、青葉山、泉パークタウン、泉区朴沢、七北田公園、三神峯公園、太白区茂庭御所など。					
一般生態	平地から山地の森林などに生息し、林内、林縁の耕作地や草地で小鳥類やネズミ類を捕食する。秋と冬は海岸近くまで飛来することもある。					
確認状況 ¹	今年度は確認されなかった。					
	場所					
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (15) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：オオタカ）

分布状況	【全国】九州北部以北で留鳥。一部の個体は冬に南西諸島で越冬する。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、広瀬川、ネッタ峠（作並 - 秋保）、青葉山、台原森林公園、東北大学植物園、泉パークタウン、泉区朴沢、七北田公園、水の森公園、三神峯公園、太白区八木山、太白区茂庭御所など。					
一般生態	平地から山地の林、河川、農耕地、湖沼、公園などに生息し、林縁部周辺で主にハトなどの中型鳥類やネズミ類、ウサギなどを捕食する。繁殖期以外は1羽で生活しているものが多い。					
確認状況 ¹	今年度は確認されなかった。					
	場所					
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
春季	—	—	—	—	—	

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (16) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ノスリ）

分布状況	【全国】北海道、本州中部以北、四国で留鳥。冬は大陸産の個体が越冬のために渡来する。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、若林区国分寺跡、七北田川、広瀬川、ネッタ峠（作並 - 秋保）、青葉山、泉パークタウン、七北田公園、水の森公園、泉ヶ岳、八木山動物公園、あすと長町、名取川、竜の口橋梁など。					
一般生態	平地から亜高山の林に生息し、その付近の草原、農耕地、牧場、河原など開けた場所で、おもにネズミ類や爬虫類・両生類などの小動物を捕食する。					
確認状況 ¹	冬季、春季に工事区域周辺 200m よりも外側等で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	○
	春季	—	—	—	○	○

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は、蒲生干潟西の堤防よりも内陸の道路付近（工事区域周辺 200m よりも外側）で確認された。

表 6.4-23 (17) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：カワセミ）

分布状況	【全国】本州以南で留鳥または漂鳥。北海道では夏鳥。 【仙台市内】宮城野区蟹沢、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、広瀬川、青葉区上愛子、青葉山、台原森林公園、泉パークタウン、七北田公園、水の森公園、あすと長町、名取川など。					
一般生態	平地から低山の河川、湖沼などに生息し、水辺の木の枝などにとまり、魚を見つけると直線的に飛び込み捕食する。河岸の土壁などに横穴を掘って営巢する。繁殖期はつがい、それ以外は1羽でなわばりを作って生活する。					
確認状況 ¹	今年度は確認されなかった。					
	場所					
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (18) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：チョウゲンボウ）

分布状況	【全国】北海道と本州中部以東で留鳥。本州中部以西では冬鳥。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区苦竹、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、青葉山、泉パークタウン、泉区根白石、七北田公園、三神峯公園、太白区富沢など。					
一般生態	平地から高山帯までの農耕地、河川敷、草地、埋立地などに生息する。ホバリングをして昆虫類やネズミ類、小鳥などを捕食する。1羽またはつがいで生活する。					
確認状況 ¹	夏季から秋季にかけて蒲生干潟等で確認された。					
	場所					
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	○	—	—
	秋季	—	—	—	—	○
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種は七北田川左岸の堤防よりも内陸（工事区域周辺 200m の外側）で確認された。

表 6.4-23 (19) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ハヤブサ）

分布状況	【全国】九州以北で留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、東北大学植物園、広瀬川、青葉区花壇、青葉山、青葉区中央、泉区朴沢、水の森公園、三神峯公園、あすと長町、太白区柳生、竜の口橋梁など。					
一般生態	平地から山地の海岸、河口、河川、湖沼、農耕地などに生息し、海岸の断崖や岩壁の岩棚や横穴で繁殖する。おもに小型鳥類を空中で捕獲するほか、水面などにたたきつけて捕食する。繁殖期以外は1羽で行動する。					
確認状況 ¹	春季に蒲生干潟等で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	○	—	○

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (20) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：モズ）

分布状況	【全国】ほぼ全国で留鳥または漂鳥。北日本では夏鳥で南西諸島では冬鳥。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区鶴ヶ谷、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、若林区国分寺跡、七北田川、広瀬川、ネッタ峠（作並 - 秋保）、青葉山、青葉区堤町、七北田公園、水の森公園、泉ヶ岳、三神峯公園、太白山、あすと長町、名取川など。					
一般生態	平地から山地の林縁や疎林、農耕地、河畔林、公園などに生息し、小型の爬虫類や両生類、昆虫類などを捕食する。繁殖期以外は1羽でなわばりを持って生活し、なわばり内の木の枝などに捕らえた獲物を突き刺す“はやにえ”をつくることが知られる。ほかの鳥のさえずりをまねることもある。					
確認状況 ¹	秋季から冬季にかけて蒲生干潟や七北田川等で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	○	○	—	—
	冬季	—	—	—	○	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (21) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ヒバリ）

分布状況	【全国】九州以北で留鳥。東北地方北部以北など積雪の多い地域では夏鳥。 沖縄では少数が旅鳥または冬鳥として渡来する。 【仙台市内】宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、広瀬川、名取川、七北田川、あすと長町、太白区茂庭御所など。					
一般生態	平地から山地の草地、砂地、農耕地、荒地などに生息する。主に植物の種子を食べるが、昆虫類も捕食する。繁殖期にはホバリングをしながら複雑に長くさえずるが、地上でもさえずることがある。繁殖期以外は群れで生活する。					
確認状況 ¹	年間を通じて蒲生干潟等で確認された。					
	場所					
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	○	○	—
	秋季	—	—	○	○	—
	冬季	—	○	○	○	○
春季	—	○	○	○	○	

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は、蒲生干潟の西の堤防周辺等で確認された。

表 6.4-23 (22) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ツバメ）

分布状況	【全国】種子島以北で夏鳥。南西諸島では旅鳥。本州中部以南で少数が越冬する。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、仙台医療センター、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、若林区国分寺跡、若林区土樋、ネッタ峠（作並 - 秋保） 青葉山、台原森林公園、青葉区堤町、東北大学植物園、七北田公園、三神峯公園、太白山、あすと長町、名取川など。					
一般生態	市街地周辺や低山の農耕地、河川敷など開けた環境に生息し、飛び回りながら空中で昆虫類を食べる。建造物の軒下などに泥と枯草に唾液を混ぜて椀型の巣をつくる。つがいまたは小群で生活するが、渡りの時期は大群になる。					
確認状況 ¹	夏季、春季に蒲生干潟等で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	○	○	○
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	○	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は、蒲生干潟の西側堤防周辺等で確認された。

表 6.4-23 (23) 注目すべき種の一般生態及び確認状況(鳥類:ウグイス)

分布状況	【全国】本州以南で留鳥または漂鳥。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、広瀬川、ネッタ峠(作並-秋保)、青葉区上愛子、青葉山、台原森林公園、東北大学植物園、県民の森、七北田公園、水の森公園、泉ヶ岳、三神峯公園、太白山、八木山動物公園、名取川など。					
一般生態	平地から山地の林に生息する。特に林床にササ類のある環境を好み、藪の中などを渡り歩いて昆虫類やクモ類を捕食する。繁殖期以外は1羽で生活するが、春秋は小群で移動する。ホトトギスに托卵先として利用されることがある。					
確認状況 ¹	春季に蒲生干潟で確認された。					
	場所					
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	○	—	—

出典: 表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図(図 6.4-1)で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲(河口、河川敷含む)。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-23 (24) 注目すべき種の一般生態及び確認状況(鳥類:オオヨシキリ)

分布状況	【全国】夏鳥として九州以北に渡来する。 【仙台市内】大倉ダム、川内、米ヶ袋、鶴ヶ谷、田子、将監、名取川、井土浦、霞目、南長沼、大沼、蒲生など。					
一般生態	河口、河川、湖沼のヨシ原などに生息し、主に昆虫類などを食べる。カッコウに托卵先として利用されることがある。					
確認状況 ¹	夏季、春季に蒲生干潟等で確認された。					
	場所					
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	○	○	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	○	○	○	—

出典: 表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図(図 6.4-1)で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲(河口、河川敷含む)。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-23 (25) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：コヨシキリ）

分布状況	【全国】夏鳥として本州中部以北に渡来するが、繁殖地は局地的である。また九州の高原で繁殖する個体群も知られている。 【仙台市内】青葉山、野牛、福田町、井土浦、広瀬川、南長沼、蒲生など。					
一般生態	平地から山地の草原や湿原などに生息し。主に昆虫類などを食べる。草むらの中へ潜行することが多い。オオヨシキリと同様、カッコウに托卵先として利用されることがある。					
確認状況 ¹	夏季に七北田川で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	○	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (26) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：セッカ）

分布状況	【全国】本州以南で留鳥または漂鳥。とくに本州中南部に多く、北陸・東北地方や日本海側の積雪が多い地域では稀。北日本の個体群は冬には暖地へ移動する。 【仙台市内】宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、広瀬川、太白区大野田、名取川など。					
一般生態	平地の草原、農耕地、河原に生息する。特にチガヤが自生している場所を好み、昆虫類やクモ類などを捕食する。繁殖期はつがいか一夫多妻で生活する。					
確認状況 ¹	夏季、春季に蒲生干潟等で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	○	○	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	○	○	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (27) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：セグロセキレイ）

分布状況	【全国】九州以北で留鳥。少数が冬に対馬、伊豆諸島、奄美大島などへ飛来する。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、広瀬川、ネッタ峠（作並 - 秋保）、青葉山、水の森公園、台原森林公園、青葉区落合、七北田公園、三神峯公園、あすと長町、名取川など。					
一般生態	平地から山地の河川、湖沼、農耕地などに生息する。尾羽を上下に振りながら水辺を歩いたり、空中に飛び立ったりして、昆虫類やクモ類を捕食する。ほぼ1年を通してつがいで生活する。					
確認状況 ¹	今年度は未確認である。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23 (28) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ホオジロ）

分布状況	【全国】種子島、屋久島以北で留鳥または漂鳥。北海道では夏鳥。 【仙台市内】榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、広瀬川、青葉区花壇、ネッタ峠（作並 - 秋保）、青葉山、台原森林公園、県民の森、七北田公園、水の森公園、泉ヶ岳、太白山、太白区茂庭御所、名取川など。					
一般生態	平地から山地の草原、農耕地、疎林、河原などに生息する。昆虫類や草の種子などを食べる。繁殖期以外は数羽で生活するものが多い。開けた場所を好み、林内に入ることはあっても暗い場所にはいかない。					
確認状況 ¹	夏季、冬季、春季に蒲生干潟等で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	○	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	○	○
	春季	—	—	○	—	○

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は蒲生干潟西側の堤防等で確認された。

表 6.4-23 (29) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：ホオアカ）

分布状況	【全国】 北海道、本州、四国、九州で留鳥または漂鳥。 【仙台市内】 宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、広瀬川、青葉山、泉区七北田、太白区富沢、あすと長町、名取川など。					
一般生態	平地から亜高山の草原などに生息し、特に背丈の低い草地を好む。主に昆虫類やクモ類、草の種子などを食べる。繁殖期以外は小群で、本州西南部以南の河川敷の草原、農耕地や干拓地に移動する。					
確認状況 ¹	春季に蒲生干潟で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	○	—	—

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-23(30) 注目すべき種の一般生態及び確認状況（鳥類：アオジ）

分布状況	【全国】 漂鳥。中部地方以北では夏鳥で、それより南では冬鳥。 【仙台市内】 榴ヶ岡公園、宮城野区蒲生、若林区井土、若林区荒浜、若林区藤塚、七北田川、広瀬川、ネッタ峠（作並 - 秋保）、青葉山、青葉区大倉、青葉区堤町、泉区の森、七北田公園、水の森公園、泉ヶ岳、三神峯公園、太白山、あすと長町、名取川など。					
一般生態	平地から山地の疎林や低木の林、草原などに生息する。薄暗い林道付近や竹藪、灌木の茂み、アシ原などの地上を跳ね歩きながら昆虫類やクモ類、草木の種子などを食べる。繁殖期以外は小群で行動する。					
確認状況 ¹	冬季、春季に蒲生干潟等で確認された。					
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	冬季	—	—	○	—	—
	春季	—	—	○	○	○

出典：表 6.4-23(1)に同じ。

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は工事区域周辺 200m 範囲よりも北側の道路で確認された。

表 6.4-24 注目すべき種の一般生態及び確認状況（両生類：ニホンアマガエル）

分布状況	【全国】北海道、本州、四国、九州、佐渡島、隠岐、壱岐、対馬、大隅諸島。 【仙台市内】沿岸から内陸にかけての各地。					
一般生態	平地から山地までの水田、湿地、池、防火水槽、河川敷や道路の水たまりなどの浅い止水で繁殖し、その近辺の灌木や草の上で生活する。繁殖期は通常4～7月であるが、場所によっては9月まで及ぶこともある。また幼生から成体への変態期は7～10月である。周囲の状況に応じて素早く体色を変化させ、主に昆虫類やクモ類を捕食する。冬季は落葉の堆積の下や樹洞等、陸上で冬眠する。					
確認状況 ¹	今年度は確認されなかった。					
	場所	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
	季節					
	夏季	—	—	—	—	—
	秋季	—	—	—	—	—
	春季	—	—	—	—	—

出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成29年）

「改訂版日本カエル図鑑」（前田憲雄他、平成11年）

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は両岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-25 (1) 注目すべき種の一般生態及び確認状況 (昆虫類：ナツアカネ)

分布状況	【全国】北海道、本州、四国、九州に分布し、佐渡島、淡路島、瀬戸内の家島諸島、隠岐、対馬、五島列島、天草諸島などの離島にも産する。 【仙台市内】沿岸から内陸にかけての各地。														
一般生態	主に平地から山地の挺水植物の繁茂する池沼や水田、湿地などに生息する。羽化は概ね夜間に茎や葉裏等に定位して行う。卵期間は半年程度、幼虫期間は3～5か月程度で、1年ごとに世代交代する。マダラナニワトンボとごく近縁であり、種間雑種も知られる。														
確認状況 ¹	秋季に工事区域内で確認された。 <table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>			場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	夏季	—	—	秋季	○	—	春季	—	—
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²													
夏季	—	—													
秋季	○	—													
春季	—	—													

出典：「平成3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市、令和4年)

「日本産トンボ幼虫・成虫 検索図説」(石田昇三他、平成5年)

「ネイチャーガイド 日本のトンボ」(尾園暁他、平成25年)

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。

表 6.4-25 (2) 注目すべき種の一般生態及び確認状況 (昆虫類：アキアカネ)

分布状況	【全国】北海道、本州、四国、九州に分布し、南千島の国後島、飛島、粟島、佐渡島、淡路島、瀬戸内海の家島諸島、隠岐、対馬、五島列島、天草諸島などの離島にも産する。 【仙台市内】沿岸から内陸にかけての各地。														
一般生態	主に平地や丘陵地、低山地の挺水植物の繁茂する池沼や水田、湿地などに生息する。羽化は概ね夜間に茎や葉裏等に定位して行う。卵期間は半年程度、幼虫期間は3～6か月程度で、1年ごとに世代交代する。平地で羽化した個体は山地へ移動して夏季を過ごし、成熟後は秋季に平地へ戻るが、一部の個体は山地でそのまま繁殖する場合もある。														
確認状況 ¹	秋季に工事区域内と工事区域周辺で確認された。 <table><tr><th>季節 \ 場所</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>			季節 \ 場所	工事区域内	工事区域周辺 ²	夏季	—	—	秋季	○	○	春季	—	—
季節 \ 場所	工事区域内	工事区域周辺 ²													
夏季	—	—													
秋季	○	○													
春季	—	—													

出典：「平成3年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市、令和4年)

「日本産トンボ幼虫・成虫 検索図説」(石田昇三他、平成5年)

「ネイチャーガイド 日本のトンボ」(尾園暁他、平成25年)

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。

(2) 対象事業による負荷の状況

a) 工事の状況

動物調査時に確認した工事の状況を表 6.4-26 に示す。

工事における作業は、主に工事区域の西側（約 3 分の 2 の範囲）で進行しており、その周辺では植生が確認されなかった。一方で東側については事務所や駐車場、資材置き場、残土置き場などが存在する他、外周の防音フェンスの際などに草本が見られた。草本の中やその周辺では、草地性・荒地性の昆虫類が確認されており、また、ホンドタヌキの糞や生体、スズメやハシブトガラス等の都市性鳥類が確認された。

表 6.4-26 (1) 工事の状況 (1/3)

季節	動物調査時に確認した工事の状況等
夏季	・ 工事区域内（工事区域内）では基礎工事が進行しており、大型クレーンや掘削で生じた残土置き場、資材置き場、現地事務所、駐車場等が存在していた。特に工事区域内の西側、倉庫棟や自動倉庫棟の範囲には構造物、重機、資材が多く配置されており、立入可能な範囲では、草本等の植生は見られなかった。 ・ 工事区域内の東側では、敷地境界付近に草本の植生が確認でき、草地性・荒地性の昆虫類が確認される状況であった。また、鳥類については、スズメ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス等、市街地や造成地等の人工的な環境でも見られる鳥が、工事区域内を時折、飛翔又は工事区域内にとまる状況も確認された。  工事区域内の南東端から見た様子（撮影日：R5/8/7）

夏季・秋季・冬季（網掛け）は「事後調査報告書（工事中その1）」に掲載した内容であり、春季（太枠）が今回追加分である。

表 6.4-26 (2) 工事中の工事区域内の様子 (2/3)

季節	動物調査時に確認した工事の状況等
秋季	・夏季調査時からの変化として、残土置き場であった場所は残土が運び出され、新たに工事用の資材が配置されていた。夏季調査時に草本が確認された工事区域内東側の敷地境界付近では、特段の変化はなく、ナツアカネやアキアカネを含む複数の昆虫類が確認される状況であった。また、同様の場所でホンダヌキやアカギツネの糞も確認された。 ・工事区域内南東端に設置した自動撮影装置（前掲図 6.4-1 の地点 P6）には、夜間にホンダヌキが映っており、糞が残されていた状況も踏まえると、主に重機が稼働していない夜間や早朝、休工日に工事区域内の植生がみられる部分を利用しているものと考えられる。工事区域内での鳥類の出現状況については、夏季と同様の種が時折確認される状況であった。   工事区域内の南東端から見た様子（撮影日：R5/10/3）
冬季	・秋季調査時からの変化として、構造物が高さを増しており、工事用資材が工事区域内東側の敷地境界付近にも配置されていた。また、草本は一部を残して枯れた状態となっていた。 ・哺乳類の糞は確認されなかった。工事区域内での鳥類の出現状況については、夏季及び秋季と大きな違いは無かった。   工事区域内の南東端から見た様子（撮影日：R5/12/21）

夏季・秋季・冬季（網掛け）は「事後調査報告書（工事中その1）」に掲載した内容であり、春季（太枠）が今回追加分である。

表 6.4-26 (3) 工事中の工事区域内の様子 (3/3)

季節	動物調査時に確認した工事の状況等
春季	・ 冬季調査時からの変化として、建物の外観が形成されたほか、工事区域内の舗装や側溝の整備が大きく進化した。冬季調査時に草本が確認された工事区域内東側の敷地境界付近では、工事の進行に伴い、舗装や側溝が整備されたことで表土が被覆され、草本は消滅した。現場事務所の裏手（東側）には草地が残された状況であったが、一部の地表性の昆虫やチョウ類がわずかに確認された程度であった。 ・ 哺乳類の糞は確認されなかった。また工事区域内での鳥類の出現状況については、夏季から冬季までと大きな違いは無かった。 工事区域内の南東端から見た様子（撮影日：R6/4/26） 工事区域内の南東端から見た様子（撮影日：R6/5/27）

夏季・秋季・冬季（網掛け）は「事後調査報告書（工事中その1）」に掲載した内容であり、春季（太枠）が本報告での追加分である。

b) 環境保全措置の実施状況

環境保全措置の実施状況を表 6.4-27 に示す。

評価書で示した環境保全措置がいずれも実施されていることを確認した。

表 6.4-27 環境保全措置の実施状況（工事中の動物）

評価書で示した環境保全措置	事後調査での実施状況
・ 計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械が稼働する時間帯や場所の平準化に努める。また、夜間作業を行わない。	・ 工事計画の策定にあたって、作業負荷の平滑化を考慮するとともに、進捗確認や調整のための会議を定期的に行い、可能なかぎり建設機械が特定の場所・時間帯に集中しないよう努めた。 ・ 夜間作業を行っていない。
・ 鳥類をはじめとする動物の重要な生息地である蒲生干潟への影響を低減するため、資材運搬等の車両の走行経路を蒲生干潟に近接しないよう設定する等の配慮を行う。	・ 工事用車両ルートが蒲生干潟に近接しないように設定した。（工事用車両ルートは第 1 章に示している）
・ 道路が蒲生干潟等の動物の重要な生息地に近いことから、車両走行時は、道路上を移動する動物の存在に注意し、ロードキル（轢死）を防止するための措置（速度低下等の啓発）をとる。	・ 車両走行時は、動物の存在に注意し、見通しが悪い場合には速度低下等の対応を行った。なお、工事現場周辺において動物のロードキルの確認はない。
・ 降雨等により工事区域内で発生した濁水が、工事区域外や動物の重要な生息地である七北田川等に流出しないよう、一時的な貯留等により敷地外への濁水流出を防止する。	・ 工事区域内に降った雨が周辺に流出しないよう、工事区域の外周（工事区域境界部）に濁水防止用のバイオリグフィルターを設置し、濁水流出を防止した。
・ 敷地内では、動物を誘引するようなもの（餌となりうる生ゴミ等）を屋外放置しないよう、周知徹底を図る。	・ 動物の誘引源となるような生ゴミを屋外放置せず、その他のゴミについても分別を徹底した。

6.4.2 予測評価結果の検証

予測評価結果の検証を表 6.4-28（哺乳類）表 6.4-29（鳥類）表 6.4-30（両生類）表 6.4-31（昆虫類）に示す。なお、評価書時の現地調査で確認されず、評価書で予測評価の対象外であった 2 種（アカアシシギ、ナツアカネ）については、事後調査結果を踏まえて影響の程度を検討した。

注目すべき種のほとんどは、評価書で示したように、工事区域周辺に存在する蒲生干潟～七北田川の水辺環境エリア（以下、周辺エリア）を主たる利用・生息地としている。工事着手後、工事区域内は改変され、工事用車両や重機も稼働しているが、「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」で示す対策を実施することで影響が及ぶ範囲を小さくするよう努めた。

元々草地・裸地であった工事区域内は、「6.4.1 6) (2) a) 工事の状況」に示すように改変に伴い土地利用が変化し、動物の生息・利用環境としては縮小しているものの、評価書調査時に工事区域内での生息・利用が他の種と比べて多かった種（ホンドタヌキ、ヒバリ）も、工事区域内の残存植生部分や蒲生干潟・七北田川等の周辺エリアを含む類似環境において確認されている。このことから、本工事による影響が相対的に大きいと想定されたこれらの種については周辺エリアが代替的に利用されていると推測される。

表 6.4-13（6.4-9 ページ）に示したように、評価書時と事後調査で確認された種には違いがみられた。ただし、事後調査において初めて確認された種があること、動物は移動能力をもつこと、貞山堀では定期的に草刈り等が行われており工事以外の環境変化があること、蒲生干潟・七北川には広い範囲から渡り鳥等が集積するが、繁殖地の環境変化や、旅鳥の場合は越冬地及び他の休息地の環境変化など、蒲生干潟や七北田川の環境変化以外の広域的な影響を受けやすい可能性があること等を勘案すると、この違いが工事影響に起因するものかどうかは判断が難しい。そのため、供用時に予定する事後調査の結果も踏まえて改めて確認状況を整理・分析し、動物相への影響について考察を行うこととする。

表 6.4-28 予測結果と事後調査結果（工事中）の比較（哺乳類：ホンドタヌキ）

予測結果	確認状況	秋季から夏季（補足）にかけて工事区域内、工事区域周辺、蒲生干潟、七北田川で糞が確認され、秋季には工事区域内に設置したセンサーカメラにて活動個体が撮影された。																																								
		<table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>					場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	○	○	—	○	—	冬季	○	○	○	○	—	春季	—	—	○	○	—	夏季(補足)	—	—	○	○	○
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																					
夏季	—	—	—	—	—																																					
秋季	○	○	—	○	—																																					
冬季	○	○	○	○	—																																					
春季	—	—	○	○	—																																					
夏季(補足)	—	—	○	○	○																																					
	予測結果	・工事区域内の利用環境が縮小するが、本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川は、工事による直接改変を受けず、生息環境の大きな減少には至らない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで騒音及び振動の影響は及ばない。 ・本種は地上を歩行して移動する特性をもち、工事中も工事区域内や近隣での一定程度の利用が残る可能性があるため、車両運行時の配慮（注意喚起、低速化等）を行うことで、工事区域内におけるロードキル等影響の低減に努める。 ・以上のことから、利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さいと考えられる。																																								
検証結果	・工事区域内は、工事が行われることで利用環境の質としては低下している。しかし、本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても工事区域内や工事区域周辺、蒲生干潟、七北田川で糞や生体が確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、評価書における現地調査時と比べて工事区域内の利用環境は減少したものの、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 ＜事後調査での本種の確認場所（再掲）＞ <table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	○	—	秋季	○	○	○	○	—	冬季	—	○	—	○	—	春季	—	—	—	○	—						
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																					
夏季	—	—	○	○	—																																					
秋季	○	○	○	○	—																																					
冬季	—	○	—	○	—																																					
春季	—	—	—	○	—																																					

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-29 (1) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:コクガン)

予測結果	確認状況	冬季に七北田川河口部で確認された。																																								
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	○	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—				
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
	夏季	—	—	—	—	—																																				
	秋季	—	—	—	—	—																																				
	冬季	—	—	—	○	—																																				
	春季	—	—	—	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																					
予測結果	・本種は越冬時に内湾や海岸、河口、干潟、沿岸部の湖沼等を好む種である。現地調査では、七北田川河口で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された七北田川では工事に伴う土地改変等は生じない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																									

検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても七北田川で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。																																		
	＜事後調査での本種の確認場所（再掲）＞																																		
	<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	○	—	春季	—	—	—	—	—				
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																													
	夏季	—	—	—	—	—																													
	秋季	—	—	—	—	—																													
	冬季	—	—	—	○	—																													
春季	—	—	—	—	—																														

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図 6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (2) 予測結果と事後調査結果（工事中）の比較（鳥類：カイツブリ）

予測結果	確認状況	秋季から春季にかけて蒲生干潟等で確認された。																																				
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	○	—	—	冬季	—	—	○	○	—	春季	—	—	○	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																
	夏季	—	—	—	—	—																																
	秋季	—	—	○	—	—																																
	冬季	—	—	○	○	—																																
	春季	—	—	○	—	—																																
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																	
予測結果	・本種は、河川、湖沼、内湾等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟及び七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																					

検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても蒲生干潟、七北田川で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。																														
	< 事後調査での本種の確認場所（再掲） >																														
	<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	○	—	秋季	—	—	○	—	—	冬季	—	—	○	—	—	春季	—	—	—	—	—
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																									
	夏季	—	—	○	○	—																									
	秋季	—	—	○	—	—																									
冬季	—	—	○	—	—																										
春季	—	—	—	—	—																										

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-29 (3) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:イカルチドリ)

予測結果	確認状況	夏季から春季にかけて蒲生干潟等で確認された。																																							
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	○	—	—	夏季(補足)	—	—	○	○	—			
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	—	—	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																				
冬季	—	—	—	—	—																																				
春季	—	—	○	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	○	○	—																																				
	予測結果	・本種は河川、水田、湿地、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事音の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																							
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでいないが、事後調査においては確認されなかった。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、本工事が原因となった主たる利用環境の大きな変化はないが、活動個体が確認されなかった理由としては工事以外の要因(自然的な変動等)が作用している可能性も考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所 (再掲) > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—				
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	—	—	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																				
冬季	—	—	—	—	—																																				
春季	—	—	—	—	—																																				

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (4) 予測結果と事後調査結果（工事中）の比較（鳥類：シロチドリ）

予測結果	確認状況	夏季に蒲生干潟等で確認された。																																								
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	○	○	—				
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
	夏季	—	—	—	—	—																																				
	秋季	—	—	—	—	—																																				
	冬季	—	—	—	—	—																																				
	春季	—	—	—	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	○	○	—																																					
予測結果	・本種は河川、水田、湿地、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																									
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても蒲生干潟、七北田川で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr></table>					場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	○	—	—	春季	—	—	—	○	—							
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																					
夏季	—	—	—	—	—																																					
秋季	—	—	—	—	—																																					
冬季	—	—	○	—	—																																					
春季	—	—	—	○	—																																					

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-29 (5) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:アカアシシギ)

予測結果	確認状況	評価書における現地調査では未確認である。																																								
		<table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—				
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																					
夏季	—	—	—	—	—																																					
秋季	—	—	—	—	—																																					
冬季	—	—	—	—	—																																					
春季	—	—	—	—	—																																					
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																					
	予測結果	・評価書における現地調査では未確認であることから、予測は行っていない。																																								

検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでいない。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																										
夏季	—	—	○	—	—																										
秋季	—	—	—	—	—																										
冬季	—	—	—	—	—																										
春季	—	—	—	—	—																										

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図 6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (6) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:ツルシギ)

予測結果	確認状況	秋季に蒲生干潟で確認された。																																									
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	○	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—
		場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
		夏季	—	—	—	—	—																																				
		秋季	—	—	○	—	—																																				
		冬季	—	—	—	—	—																																				
		春季	—	—	—	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																						
予測結果	・本種は河川、水田、湿地、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																										
	検証結果 ・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでいないが、事後調査においては確認されなかった。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、本工事が原因となった主たる利用環境の大きな変化はないが、活動個体が確認されなかった理由としては工事以外の要因(自然的な変動等)が作用している可能性も考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所 (再掲) > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—							
							場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																															
							夏季	—	—	—	—	—																															
							秋季	—	—	—	—	—																															
							冬季	—	—	—	—	—																															
春季	—	—	—	—	—																																						

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (7) 予測結果と事後調査結果 (工事中) の比較 (鳥類: オオセグロカモメ)

予測結果	確認状況	夏季、冬季、春季に蒲生干潟や七北田川等で確認された。																																							
		<table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	○	—	—	春季	—	—	○	○	○	夏季(補足)	○	○	○	○	○			
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	○	—	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																				
冬季	—	—	○	—	—																																				
春季	—	—	○	○	○																																				
夏季(補足)	○	○	○	○	○																																				
	予測結果	・本種は沖合、沿岸、内湾、河口等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟や七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																							
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても工事区域周辺や蒲生干潟、七北田川等で継続的に確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	○	—	秋季	—	—	○	○	—	冬季	—	○	○	○	○	春季	—	—	—	—	—					
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	○	○	—																																				
秋季	—	—	○	○	—																																				
冬季	—	○	○	○	○																																				
春季	—	—	—	—	—																																				

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図 (図 6.4-1) で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である (本種は該当なし)。

表 6.4-29 (8) 予測結果と事後調査結果 (工事中) の比較 (鳥類: コアジサシ)

予測結果	確認状況	夏季（補足）に蒲生干潟や七北田川で確認された。																																							
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	○	○	—			
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	—	—	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																				
冬季	—	—	—	—	—																																				
春季	—	—	—	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	○	○	—																																				
	予測結果	・本種は沖合、沿岸、内湾、河口等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟や七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																							

検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでいないが、事後調査においては確認されなかった。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、本工事が原因となった主たる利用環境の大きな変化はないが、活動個体が確認されなかったことは工事以外の要因(自然的な変動等)が作用している可能性も考えられる。																													
	< 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																									
夏季	—	—	—	—	—																									
秋季	—	—	—	—	—																									
冬季	—	—	—	—	—																									
春季	—	—	—	—	—																									

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図 (図 6.4-1) で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である (本種は該当なし)。

表 6.4-29 (9) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:ゴイサギ)

予測結果	確認状況	夏季に蒲生干潟で確認された。																																									
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—
		場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
		夏季	—	—	○	—	—																																				
		秋季	—	—	—	—	—																																				
		冬季	—	—	—	—	—																																				
		春季	—	—	—	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																						
予測結果	・評価書における現地調査時は、注目種ではなかったことから、予測は行っていない。																																										
検証結果																																											
・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでいないが、事後調査においては確認されなかった。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、本工事が原因となった主たる利用環境の大きな変化はないが、活動個体が確認されなかった理由としては工事以外の要因(自然的な変動等)が作用している可能性も考えられる。																																											
< 事後調査での本種の確認場所 (再掲) > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—								
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																						
夏季	—	—	—	—	—																																						
秋季	—	—	—	—	—																																						
冬季	—	—	—	—	—																																						
春季	—	—	—	—	—																																						

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図 6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (10) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:チュウサギ)

予測結果	確認状況	夏季に蒲生干潟等で確認された。																																							
		<table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	○	—	—			
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	○	—	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																				
冬季	—	—	—	—	—																																				
春季	—	—	—	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	○	—	—																																				
	予測結果	・本種は河川、水田、湿地、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事音の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																							
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでいないが、事後調査においては確認されなかった。本来、本種が好む環境は主に草地や水田であることから、評価書時の調査での確認は偶発的なものである可能性がある。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、本工事が原因となった主たる利用環境の大きな変化はないが、活動個体が確認されなかった理由としては工事以外の要因(自然的な変動等)が作用している可能性も考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所 (再掲) > <table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—					
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	—	—	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																				
冬季	—	—	—	—	—																																				
春季	—	—	—	—	—																																				

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (11) 予測結果と事後調査結果（工事中）の比較（鳥類：コサギ）

予測結果	確認状況	夏季から春季にかけて蒲生干潟等で確認された。																																								
		<table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	—	—	秋季	—	—	○	○	—	冬季	—	—	○	○	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—				
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																					
夏季	—	—	○	—	—																																					
秋季	—	—	○	○	—																																					
冬季	—	—	○	○	—																																					
春季	—	—	—	—	—																																					
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																					
	予測結果	・本種は河川、水田、湿地、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟、七北田川等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																								
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても工事区域周辺や蒲生干潟、七北田川等で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>							場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	○	—	秋季	—	—	○	○	—	冬季	—	—	○	○	—	春季	—	○	○	○	○					
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																					
夏季	—	—	○	○	—																																					
秋季	—	—	○	○	—																																					
冬季	—	—	○	○	—																																					
春季	—	○	○	○	○																																					

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-29 (12) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:カラシラサギ)

予測結果	確認状況	夏季に蒲生干潟で確認された。																																							
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—			
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	○	—	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																				
冬季	—	—	—	—	—																																				
春季	—	—	—	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																				
	予測結果	・本種は海岸、河口、干潟、河川、水田、湿地等の水辺を好む種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																							
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでいないが、事後調査においては確認されなかった。本種は評価書における調査で1個体のみ確認されたことから、偶発的な確認である可能性もある。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、本工事が原因となった主たる利用環境の大きな変化はないが、活動個体が確認されなかった理由としては工事以外の要因(自然的な変動等)が作用している可能性も考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所 (再掲) > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—				
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	—	—	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																				
冬季	—	—	—	—	—																																				
春季	—	—	—	—	—																																				

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図 6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (13) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:ミサゴ)

予測結果	確認状況	四季を通して工事区域周辺や蒲生干潟等で確認された。																																							
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	○	○	○	—	—	秋季	○	○	○	○	—	冬季	○	○	○	○	—	春季	—	○	○	○	○	夏季(補足)	○	○	—	—	—			
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	○	○	○	—	—																																				
秋季	○	○	○	○	—																																				
冬季	○	○	○	○	—																																				
春季	—	○	○	○	○																																				
夏季(補足)	○	○	—	—	—																																				
	予測結果	・本種は海岸、河口、河川、湖沼等の水辺を好む種である。現地調査では、工事区域内外や周辺の蒲生干潟等で確認されている。 ・工事区域内は工事による改変を受けるが、工事区域は魚類を餌資源とする本種にとって採餌場ではなく、蒲生干潟や七北川河口と他の水域への移動途中に上空を通過する区域であると考えられる。 ・本種の採餌場となり得る蒲生干潟や七北川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																							
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても工事区域周辺や蒲生干潟、七北田川等で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>							場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	○	○	秋季	—	—	○	○	—	冬季	—	—	○	○	○	春季	—	○	○	○	○				
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	○	○	○																																				
秋季	—	—	○	○	—																																				
冬季	—	—	○	○	○																																				
春季	—	○	○	○	○																																				

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (14) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:ハイタカ)

予測結果	確認状況	秋季と冬季に七北田川等で確認された。																																			
		<table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	○	冬季	—	—	—	○	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																
夏季	—	—	—	—	—																																
秋季	—	—	—	—	○																																
冬季	—	—	—	○	—																																
春季	—	—	—	—	—																																
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																
	予測結果	・本種は樹林環境を好み、それらの周辺で鳥類を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟付近、七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・工事区域内は工事による改変を受けるが、樹木もなく餌資源となる鳥類の滞留も少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる鳥類が多く存在し、採餌環境として適する蒲生干潟、七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																			
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでいないが、事後調査においては確認されなかった。本種は移動能力が高いこと、本来の生息環境は樹林であることから、評価書段階の調査における確認は偶発的な確認であった可能性がある。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、本工事が原因となった主たる利用環境の大きな変化はないが、活動個体が確認されなかった理由としては工事以外の要因(自然的な変動等)が作用している可能性も考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所 (再掲) > <table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																
夏季	—	—	—	—	—																																
秋季	—	—	—	—	—																																
冬季	—	—	—	—	—																																
春季	—	—	—	—	—																																

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は、蒲生干潟の西側堤防付近等で確認された。

表 6.4-29 (15) 予測結果と事後調査結果 (工事中) の比較 (鳥類: オオタカ)

予測結果	確認状況	夏季に蒲生干潟で確認された。																																							
		<table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—			
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	○	—	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																				
冬季	—	—	—	—	—																																				
春季	—	—	—	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																				
	予測結果	・本種は樹林環境を好み、それらの周辺で鳥類を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・工事区域内は工事による改変を受けるが、樹木もなく餌資源となる鳥類の滞留も少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる鳥類が多く存在し、採餌環境として適する七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																							
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでいないが、事後調査においては確認されなかった。本種は移動能力が高いことと、本来の生息環境は樹林であることから、評価書段階の調査における確認は偶発的な確認であった可能性がある。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、本工事が原因となった主たる利用環境の大きな変化はないが、活動個体が確認されなかった理由としては工事以外の要因(自然的な変動等)が作用している可能性も考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所 (再掲) > <table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—				
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
夏季	—	—	—	—	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																				
冬季	—	—	—	—	—																																				
春季	—	—	—	—	—																																				

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図 (図 6.4-1) で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である (本種は該当なし)。

表 6.4-29 (16) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:ノスリ)

予測結果	確認状況	秋季から夏季にかけて工事区域周辺や蒲生干潟等で確認された。																																				
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>冬季</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>春季</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	○	○	○	冬季	○	○	○	○	○	春季	○	○	—	○	○	夏季(補足)	—	—	—	—	○
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																
	夏季	—	—	—	—	—																																
	秋季	—	—	○	○	○																																
	冬季	○	○	○	○	○																																
	春季	○	○	—	○	○																																
夏季(補足)	—	—	—	—	○																																	
予測結果	・本種は樹林環境を好み、それらの周辺にある草地や耕作地等で小型哺乳類や鳥類等を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、工事区域内では上空の飛翔が確認されている。 ・工事区域内は工事による改変を受けるが、樹木もなく餌資源となる鳥類の滞留が少なく、昆虫相も貧弱であるエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる鳥類が多く存在し、採餌環境として適する蒲生干潟、七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																					
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、七北田川等で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。																																					
＜事後調査での本種の確認場所（再掲）＞																																						
	<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	○	春季	—	—	—	○	○							
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																	
夏季	—	—	—	—	—																																	
秋季	—	—	—	—	—																																	
冬季	—	—	—	—	○																																	
春季	—	—	—	○	○																																	

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種は蒲生干潟西側の堤防付近等で確認された。

表 6.4-29 (17) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:カワセミ)

予測結果	確認状況	秋季と冬季に七北田川で確認された。																																									
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	○	—	冬季	—	—	—	○	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—
		場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
		夏季	—	—	—	—	—																																				
		秋季	—	—	—	○	—																																				
		冬季	—	—	—	○	—																																				
		春季	—	—	—	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																						
予測結果	・本種は河川、湖沼、池等の水辺を好む種である。現地調査では、七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																										
	検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでいないが、事後調査においては確認されなかった。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、本工事が原因となった主たる利用環境の大きな変化はないが、活動個体が確認されなかった理由としては工事以外の要因(自然的な変動等)が作用している可能性も考えられる。																																									
		＜事後調査での本種の確認場所（再掲）＞																																									
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—						
		場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
		夏季	—	—	—	—	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																						
冬季	—	—	—	—	—																																						
春季	—	—	—	—	—																																						

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (18) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:チョウゲンボウ)

予測結果	確認状況	秋季から夏季にかけて工事区域周辺や蒲生干潟等で確認された。																																				
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	○	—	—	—	冬季	—	○	—	○	○	春季	—	—	○	—	—	夏季(補足)	○	○	○	—	○
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																
	夏季	—	—	—	—	—																																
	秋季	—	○	—	—	—																																
	冬季	—	○	—	○	○																																
	春季	—	—	○	—	—																																
夏季(補足)	○	○	○	—	○																																	
予測結果	・本種は農耕地、河川敷、草地、埋立地等で見られ、小動物や昆虫を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・工事区域内は工事による改変を受けるが、餌資源となる昆虫類等が貧弱であることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる小動物等が多く存在し、採餌環境として適する蒲生干潟、七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																					

検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても蒲生干潟等で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。																															
	＜事後調査での本種の確認場所（再掲）＞																															
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	—	—	秋季	—	—	—	—	○	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																										
	夏季	—	—	○	—	—																										
	秋季	—	—	—	—	○																										
冬季	—	—	—	—	—																											
春季	—	—	—	—	—																											

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種は七北田川左岸の堤防よりも内陸(工事区域周辺200mの外側)で確認された。

表 6.4-29 (19) 予測結果と事後調査結果 (工事中) の比較 (鳥類: ハヤブサ)

予測結果	確認状況	秋季に工事区域内等、冬季に蒲生干潟で確認された。																																				
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	○	○	○	○	—	冬季	—	—	○	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																
	夏季	—	—	—	—	—																																
	秋季	○	○	○	○	—																																
	冬季	—	—	○	—	—																																
	春季	—	—	—	—	—																																
夏季(補足)	—	—	—	—	—																																	
予測結果	・本種は海岸、河口、河川、湖沼等の水辺や農耕地等で見られ、鳥類を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、工事区域内では上空の飛翔が確認されている。 ・工事区域内は工事による改変を受けるが、餌資源となる鳥類の滞留も少ないエリアであることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる鳥類が多く存在し、採餌環境として適する蒲生干潟、七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																					
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても蒲生干潟等で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	○	—	○		
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																	
夏季	—	—	—	—	—																																	
秋季	—	—	—	—	—																																	
冬季	—	—	—	—	—																																	
春季	—	—	○	—	○																																	

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図 (図 6.4-1) で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である (本種は該当なし)。

表 6.4-29 (20) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:モズ)

予測結果	確認状況	秋季から夏季にかけて蒲生干潟や七北田川等で確認された。																																														
		<table><tr><td>場所</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr></table>	場所						季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	○	—	冬季	—	—	—	○	—	春季	—	—	○	—	—	夏季(補足)	—	—	○	—	○				
	場所																																															
	季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																										
	夏季	—	—	—	—	—																																										
	秋季	—	—	—	○	—																																										
	冬季	—	—	—	○	—																																										
春季	—	—	○	—	—																																											
夏季(補足)	—	—	○	—	○																																											
予測結果	・本種は林縁や疎林、農耕地、河畔林、公園等の開けた環境に見られ、昆虫類他小動物を捕食する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・工事区域内は工事による改変を受けるが、餌資源となる昆虫類等が少ないことから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる小動物等が多く存在し、採餌環境として適する七北田川等は、工事による改変を受けない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																															

検証結果	・本種の主な利用域の中心である七北田川等の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても工事区域周辺や蒲生干潟、七北田川で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。
------	--

< 事後調査での本種の確認場所（再掲） >

場所					
季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
夏季	—	—	—	—	—
秋季	—	○	○	—	—
冬季	—	—	—	○	—
春季	—	—	—	—	—

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (21) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:ヒバリ)

予測結果	確認状況	四季を通して工事区域内等で確認された。																																								
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	○	○	○	—	—	秋季	○	○	○	○	—	冬季	—	—	—	○	—	春季	○	○	○	○	○	夏季(補足)	○	○	○	○	○				
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
	夏季	○	○	○	—	—																																				
	秋季	○	○	○	○	—																																				
	冬季	—	—	—	○	—																																				
	春季	○	○	○	○	○																																				
	夏季(補足)	○	○	○	○	○																																				
予測結果	・本種は、草地環境を好む種である。現地調査では、工事区域内及び周辺、蒲生干潟、七北田川河川敷等で確認されており、工事区域内では餌の運搬等繁殖に関わる行動も確認されている。 ・工事中においては、土地改変及び工作物の出現等により、工事区域内に存在する草地環境は減少/消失すると考えられる。しかし、蒲生干潟、七北田川含め、類似環境が周辺に広がっていることから、周辺エリアを含めて分析すると採餌環境の変化は小さいと考えられる。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で82dB、振動レベルは最大で70dBであるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・工事区域内で生息が確認されており、供用後は、工事区域内の利用頻度が減少すると予想される。蒲生干潟や七北田川等、周辺に類似の利用環境が広がっていることから、本種の消滅や著しい減少に至るほどの変化は生じないと考えられる。 ・また、工事中に工事区域内に残る草地等が利用される可能性があるが、車両運行時の配慮（注意喚起、低速化等）を行うことで、工事区域内におけるロードキル等、影響の低減に努める。 ・以上のことから、利用環境が一部消失/縮小するが、主たる利用環境に大きな変化はなく、種としての影響は小さいと考えられる。																																									
検証結果	・工事区域内は、工事が行われることで利用環境の質としては低下している。しかし、本種の利用域の一つである蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても工事区域周辺や蒲生干潟等で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、評価書における現地調査時と比べて工事区域内の利用環境は減少したものの、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 ＜事後調査での本種の確認場所（再掲）＞ <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	○	—	秋季	—	—	○	○	—	冬季	—	○	○	○	○	春季	—	○	○	○	○						
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																					
夏季	—	—	○	○	—																																					
秋季	—	—	○	○	—																																					
冬季	—	○	○	○	○																																					
春季	—	○	○	○	○																																					

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は、蒲生干潟の西の堤防周辺等で確認された。

表 6.4-29 (22) 予測結果と事後調査結果（工事中）の比較（鳥類：ツバメ）

予測結果	確認状況	夏季に工事区域内等、春季に蒲生干潟等で確認された。						
		場所						
		季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	
		夏季	○	○	○	—	—	
		秋季	—	—	—	—	—	
		冬季	—	—	—	—	—	
		春季	—	—	○	—	○	
夏季(補足)		○	○	○	○	○		
予測結果		・本種は市街地周辺の農耕地や河川敷など開けた環境に生息に見られ、昆虫類等を捕食する種である。現地調査では、工事区域及びその周辺、蒲生干潟等で確認されている。						
		・工事区域内は工事による改変を受けるが、餌資源となる昆虫類等が貧弱であることから、採餌環境としての変化は小さいと考えられる。一方で、餌資源となる小動物等が多く存在し、採餌環境として適する蒲生干潟、七北田川等は、工事による改変を受けない。						
		・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。						
		・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。						
検証結果		・工事区域内は、工事が行われることで利用環境の質としては低下している。しかし、本種の利用域の一つである蒲生干潟、七北田川の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても蒲生干潟や七北田川等で確認されている。						
		・以上のことから、評価書調査時と比べて工事区域内の利用環境は減少したものの、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。						
＜事後調査での本種の確認場所（再掲）＞								
場所								
季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²			
夏季	—	—	○	○	○			
秋季	—	—	—	—	—			
冬季	—	—	—	—	—			
春季	—	—	○	—	—			

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は、工事区域周辺の東側付近、蒲生干潟の西側堤防周辺等で確認された。

表 6.4-29 (23) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:ウグイス)

予測結果	確認状況	秋季から夏季にかけて蒲生干潟や七北田川等で確認された。						
		場所						
		季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	
		夏季	—	—	—	—	—	
		秋季	—	—	○	—	—	
		冬季	—	—	○	○	—	
		春季	—	—	—	—	—	
夏季(補足)	—	—	—	○	—			
予測結果		・本種は樹林環境に生息し、林床にササ類や灌木の多い環境や藪のある緑地等を好む種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。						
		・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。						
		・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。						
		・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。						
検証結果		・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟や七北田川等の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても蒲生干潟で確認されている。						
		・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。						
		・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。						
＜事後調査での本種の確認場所（再掲）＞								
場所								
季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²			
夏季	—	—	—	—	—			
秋季	—	—	—	—	—			
冬季	—	—	—	—	—			
春季	—	—	○	—	—			

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図 6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (24) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:オオヨシキリ)

予測結果	確認状況	夏季（補足）に蒲生干潟等で確認された。																																	
		場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																												
		夏季	—	—	—	—	—																												
		秋季	—	—	—	—	—																												
		冬季	—	—	—	—	—																												
		春季	—	—	—	—	—																												
		夏季(補足)	—	○	○	○	—																												
予測結果	・本種はヨシ原に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																		
	検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟や七北田川等の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても工事区域周辺や蒲生干潟、七北田川で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr></table>					場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	○	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	○	○	○
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																														
夏季	—	—	○	○	—																														
秋季	—	—	—	—	—																														
冬季	—	—	—	—	—																														
春季	—	○	○	○	—																														

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (25) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:コヨシキリ)

予測結果	確認状況	夏季（補足）に七北田川で確認された。																																									
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	○	—
		場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
		夏季	—	—	—	—	—																																				
		秋季	—	—	—	—	—																																				
		冬季	—	—	—	—	—																																				
		春季	—	—	—	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	—	○	—																																						
予測結果	・本種は草原や湿原などに生息する種である。現地調査では、七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で82dB、振動レベルは最大で70dBであるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																										
	検証結果 ・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟や七北田川等の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても七北田川で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	○	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—							
							場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																															
							夏季	—	—	—	○	—																															
							秋季	—	—	—	—	—																															
							冬季	—	—	—	—	—																															
春季	—	—	—	—	—																																						

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (26) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:セッカ)

予測結果	確認状況	秋季および夏季（補足）に蒲生干潟で確認された。																																									
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	○	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	○	—	—
		場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
		夏季	—	—	—	—	—																																				
		秋季	—	—	○	—	—																																				
		冬季	—	—	—	—	—																																				
		春季	—	—	—	—	—																																				
夏季(補足)	—	—	○	—	—																																						
予測結果	・本種は草原、農耕地、河原に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																										
	検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟や七北田川等の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても蒲生干潟や七北田川で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。。																																									
		< 事後調査での本種の確認場所（再掲） >																																									
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	○	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	○	○	—						
		場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																				
		夏季	—	—	○	○	—																																				
秋季	—	—	—	—	—																																						
冬季	—	—	—	—	—																																						
春季	—	—	○	○	—																																						

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (27) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:セグロセキレイ)

予測結果	確認状況	秋季に工事区域周辺で、夏季（補足）に七北田川で確認された。																																				
		<table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	○	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	○	—
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																
	夏季	—	—	—	—	—																																
	秋季	—	○	—	—	—																																
	冬季	—	—	—	—	—																																
	春季	—	—	—	—	—																																
夏季(補足)	—	—	—	○	—																																	
予測結果	・本種は河川、湖沼、農耕地等に生息する種である。現地調査では、工事区域周辺（工事区域東側約 100m の貞山堀付近）で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された工事区域周辺エリア（貞山堀等）及び本種が好む水辺環境が存在する蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																					

検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟や七北田川等の周辺エリアには工事影響は及んでいないが、事後調査では確認されなかった。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、本工事が原因となった主たる利用環境の大きな変化はないが、活動個体が確認されなかった理由としては工事以外の要因（自然的な変動等）が作用している可能性も考えられる。	＜事後調査での本種の確認場所（再掲）＞																															
			<table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—
		場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																										
		夏季	—	—	—	—	—																										
		秋季	—	—	—	—	—																										
		冬季	—	—	—	—	—																										
		春季	—	—	—	—	—																										
季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																												
夏季	—	—	—	—	—																												
秋季	—	—	—	—	—																												
冬季	—	—	—	—	—																												
春季	—	—	—	—	—																												

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である(本種は該当なし)。

表 6.4-29 (28) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:ホオジロ)

予測結果	確認状況	四季を通して蒲生干潟等で確認された。																																								
		<table><tr><th> 場所 季節 </th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	○	○	—	—	秋季	—	—	○	—	—	冬季	—	—	○	○	—	春季	—	—	○	—	—	夏季(補足)	—	○	○	○	○				
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																					
夏季	—	○	○	—	—																																					
秋季	—	—	○	—	—																																					
冬季	—	—	○	○	—																																					
春季	—	—	○	—	—																																					
夏季(補足)	—	○	○	○	○																																					
	予測結果	・本種は草原、農耕地、疎林、河原等に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																								
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟や七北田川等の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても蒲生干潟や七北田川で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><th> 場所 季節 </th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr></table>							場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	○	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	○	○	春季	—	—	○	—	○					
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																					
夏季	—	—	○	—	—																																					
秋季	—	—	—	—	—																																					
冬季	—	—	—	○	○																																					
春季	—	—	○	—	○																																					

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は蒲生干潟西側の堤防等で確認された。

表 6.4-29 (29) 予測結果と事後調査結果(工事中)の比較(鳥類:ホオアカ)

予測結果	確認状況	秋季、冬季、春季に蒲生干潟等で確認された。																																				
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	○	—	冬季	—	—	—	—	○	春季	—	—	○	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—
	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																
	夏季	—	—	—	—	—																																
	秋季	—	—	—	○	—																																
	冬季	—	—	—	—	○																																
	春季	—	—	○	—	—																																
	夏季(補足)	—	—	—	—	—																																
予測結果	・本種は草原、農耕地、干拓地等の草地環境に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川等で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟、七北田川は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で82dB、振動レベルは最大で70dBであるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟、七北田川等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																					
検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟や七北田川等の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても蒲生干潟で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td><td>蒲生干潟²</td><td>七北田川²</td><td>左記以外²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>冬季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>					場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	冬季	—	—	—	—	—	春季	—	—	○	—	—			
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																																	
夏季	—	—	—	—	—																																	
秋季	—	—	—	—	—																																	
冬季	—	—	—	—	—																																	
春季	—	—	○	—	—																																	

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺200mの範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図(図6.4-1)で示した範囲に対応。「左記以外」は、～のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は蒲生干潟西側の堤防等で確認された。

表 6.4-29 (30) 予測結果と事後調査結果（工事中）の比較（鳥類：アオジ）

予測結果	確認状況	秋季から夏季（補足）にかけて蒲生干潟等で確認された。					
		場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
		夏季	—	—	—	—	—
		秋季	—	—	○	—	—
		冬季	—	—	○	—	—
		春季	—	○	○	○	—
		夏季(補足)	—	—	○	○	—
予測結果	・本種は草原、農耕地、疎林、河原等に生息する種である。現地調査では、蒲生干潟、七北田川で確認されており、工事区域内では確認されていない。 ・本種が確認された蒲生干潟は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られ、蒲生干潟等まで音環境等の変化は及ばないと考えられる。 ・蒲生干潟等、本種の主たる利用・生息環境は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。						
	検証結果	・本種の主な利用域の中心である蒲生干潟や七北田川等の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査でも蒲生干潟や七北田川等で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。					

< 事後調査での本種の確認場所（再掲） >

場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²
夏季	—	—	—	—	—
秋季	—	—	—	—	—
冬季	—	—	○	—	—
春季	—	—	○	○	○

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」と「七北田川」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である。本種の場合は工事区域の北にある県道 10 号沿い等で確認された。

表 6.4-30 予測結果と事後調査結果（工事中）の比較（両生類：ニホンアマガエル）

予測結果	確認状況	春季に工事区域周辺（西側の貞山堀付近）で鳴き声が確認された。																																	
		<table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>○</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>夏季(補足)</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	春季	—	○	—	—	—	夏季(補足)	—	—	—	—	—			
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																														
夏季	—	—	—	—	—																														
秋季	—	—	—	—	—																														
春季	—	○	—	—	—																														
夏季(補足)	—	—	—	—	—																														
	予測結果	・本種は水田、池沼、溝等の浅い止水環境で繁殖する種である。現地調査では、工事区域周辺の貞山堀付近で成体の鳴き声が確認されている。 ・工事区域周辺で繁殖環境となる可能性がある場所として貞山堀の三面張の水路等が存在するが、当該場所は工事により改変されない。 ・騒音及び振動の予測結果によれば、工事区域の敷地境界近辺で、騒音レベルは最大で 82dB、振動レベルは最大で 70dB であるが、現況からの増加が大きくなる範囲は工事区域近辺に限られる。 ・本種の主たる利用・生息環境である貞山堀等は、工事による直接改変を受けず、工事中の音環境等の変化も及ばないと考えられることから、本種の影響は生じないものと考えられる。																																	
検証結果	・本種の主な利用域の中心である貞山堀の周辺エリアには工事影響は及んでいないが、事後調査においては確認されなかった。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、本工事が原因となった主たる利用環境の大きな変化はないが、活動個体が確認されなかった理由としては工事以外の要因(自然的な変動等)が作用している可能性も考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th><th>蒲生干潟²</th><th>七北田川²</th><th>左記以外²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>						場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²	夏季	—	—	—	—	—	秋季	—	—	—	—	—	春季	—	—	—	—	—					
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	蒲生干潟 ²	七北田川 ²	左記以外 ²																														
夏季	—	—	—	—	—																														
秋季	—	—	—	—	—																														
春季	—	—	—	—	—																														

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。「蒲生干潟」は調査地点図（図 6.4-1）で示した範囲に対応。「七北田川」は兩岸の堤防よりも内側の範囲（河口、河川敷含む）。「左記以外」は、～ のいずれにも該当せず、定点から目視による同定が可能であった場所での確認である（本種は該当なし）。

表 6.4-31 (1) 予測結果と事後調査結果（工事中）の比較（昆虫類：ナツアカネ）

予測結果	確認状況	評価書における現地調査では未確認である。														
		<table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>			場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	夏季	—	—	秋季	—	—	春季	—	—
		場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²												
		夏季	—	—												
		秋季	—	—												
春季	—	—														
予測結果																
・ 評価書における現地調査では未確認であったため、予測評価は行っていない。																
事後調査結果	・ 本種の利用環境の一つと考えられる工事区域内は、工事が行われることで利用環境の質としては低下している。しかし、本種の主な利用域の中心であると考えられる貞山堀の周辺エリアには工事影響は及んでいない。 ・ 工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・ 以上のことから、評価書における現地調査時と比べて工事区域内の利用環境は減少したものの、主たる利用環境に大きな変化はなく、工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><td>場所 季節</td><td>工事区域内</td><td>工事区域周辺²</td></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>				場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	夏季	—	—	秋季	○	—	春季	—	—
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²														
夏季	—	—														
秋季	○	—														
春季	—	—														

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。

表 6.4-31 (2) 予測結果と事後調査結果（工事中）の比較（昆虫類：アキアカネ）

予測結果	確認状況	夏季と秋季に工事区域内と工事区域周辺で確認された。														
		<table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>○</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	夏季	○	—	秋季	○	○	春季	—	—		
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²														
夏季	○	—														
秋季	○	○														
春季	—	—														
	予測結果	・本種は挺水植物の繁茂する池沼や水田、溝等で繁殖する種である。現地調査では、工事区域及び工事区域周辺の貞山堀付近で成虫が確認されている。 ・工事区域周辺で繁殖環境となる可能性がある場所として貞山堀の三面張の水路等が存在するが、当該場所は工事により改変されない。なお、工事区域内に繁殖環境は存在せず、工事区域内での確認は成虫の飛来による機会的利用であると考えられる。 ・本種の主たる利用・生息環境である貞山堀等は、工事による直接改変を受けないことから、本種の影響は生じないものと考えられる。														
検証結果	・本種の利用環境の一つと考えられる工事区域内は、工事が行われることで利用環境の質としては低下している。しかし、本種の主な利用域の中心である貞山堀の周辺エリアには工事影響は及んでおらず、事後調査においても工事区域内及び工事区域周辺で確認されている。 ・工事着手前と比べて、工事区域を出入りする工事用車両や重機の稼働があるが、工事の実施にあたって「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す対策が講じられている。 ・以上のことから、評価書における現地調査時と比べて工事区域内の利用環境は減少したものの、主たる利用環境に大きな変化はなく、予測の通り工事の影響はないと考えられる。 < 事後調査での本種の確認場所（再掲） > <table><tr><th>場所 季節</th><th>工事区域内</th><th>工事区域周辺²</th></tr><tr><td>夏季</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>秋季</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>春季</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>				場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²	夏季	—	—	秋季	○	○	春季	—	—
場所 季節	工事区域内	工事区域周辺 ²														
夏季	—	—														
秋季	○	○														
春季	—	—														

1 「○」は確認あり、「—」は確認なし。

2 「工事区域周辺」は、工事区域周辺 200m の範囲内。

6.4.3 追加的な環境保全対策等の検討

前項「6.4.2 予測評価結果の検証」で示したように、工事区域内は改変され、工事用車両や重機も稼働しているが、「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す環境保全措置を行ったことで、工事区域周辺に存在する蒲生干潟～七北田川の水辺環境エリアへの影響は低減されたものと考えられる。評価書時と事後調査で確認種数に違いはあるものの、その違いが本工事に起因するものかどうかは判断が難しい。

以上のことから、追加的な環境保全対策等は実施しなかったが、「6.4.1 6) (2) b) 環境保全措置の実施状況」に示す環境保全措置を継続していくことで、影響の回避・低減に努めた。

また、供用時に予定する事後調査の結果を踏まえて改めて確認状況等を整理・分析し、本事業による影響が小さくないと判断される場合は、追加的な環境保全対策の必要性を検討する。

6.5 廃棄物等

6.5.1 事後調査の結果等

1) 調査内容

調査内容を表 6.5-1 に示す。

表 6.5-1 調査内容（廃棄物等）

区分※	調査内容
対象事業の状況及び対象事業による負荷の状況	・廃棄物の発生量と種類
	・残土量
	・環境保全措置の実施状況

※ 「区分」は、「仙台市環境影響評価技術指針」における「事後調査の内容」を踏まえたものである。なお、「環境保全措置の実施状況」は、事業者が実施するものであり「対象事業の状況及び対象事業による負荷の状況」と関連することから同項目のなかで整理した。

2) 調査方法

調査方法を表 6.5-2 に示す。

表 6.5-2 調査方法（廃棄物等）

項目	調査方法
・廃棄物の発生量と種類 ・残土量 ・環境保全措置の実施状況	・記録の確認、施工業者等への情報照会とした。

3) 調査地域等

工事区域内とした。

4) 調査期間等

調査期間は工事期間全体とした。

なお、「事後調査報告書（工事中その1）」では、工事着手時から中間段階までの期間（2023年4月～2024年1月）の実績値を報告しており、これに2024年2月～8月分の実績値を加え今回の報告とした。

5) 調査結果

(1) 対象事業による負荷の状況

a) 廃棄物

廃棄物発生量の調査結果を表 6.5-3（重量ベース）及び表 6.5-4（体積ベース）に示す。

工事期間全体を通じた廃棄物発生量は 1250.2t であり、主な種類として「コンクリートがら」（461.0t）、「廃プラスチック類」（208.6t）、「木くず」（265.8t）等が挙げられる。現場内での減量化・有効利用はなく全量が搬出されており、搬出先で再生処理・減量化・埋立処分がされている。埋立処分される量を除いた「再生・減量化・有効利用率」は、全体で 94%である。

表 6.5-3 工事中の廃棄物発生量の調査結果（重量ベース）

単位：t/集計期間(工事期間全体)

区分			発生量	現場内		搬出				再生処理・
				減量化	有効 利用	計	再生 処理	減量化	埋立 処分	減量化・ 有効利用率
			①	②	③	⑤+⑥ +⑦	⑤	⑥	⑦	(②+③+⑤ +⑥)/①
単品	安定型	コンクリートがら	461.0	0.0	0.0	461.0	461.0	0.0	0.0	100%
		アスコンがら	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		その他がれき類※	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		ガラス・陶磁器くず	89.6	0.0	0.0	89.6	53.8	0.0	35.8	60%
		廃プラスチック類	208.6	0.0	0.0	208.6	187.7	0.0	20.9	90%
		金属くず	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		石綿含有産業廃棄物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		ALC パネル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	管理型	汚泥	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		紙くず	22.5	0.0	0.0	22.5	22.5	0.0	0.0	100%
		木くず	265.8	0.0	0.0	265.8	265.8	0.0	0.0	100%
		繊維くず	0.9	0.0	0.0	0.9	0.9	0.0	0.0	100%
		廃石膏ボード	77.1	0.0	0.0	77.1	77.1	0.0	0.0	100%
		廃油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	特管物	廃石綿等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		引火性廃油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		廃 PCB	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
混合	混合廃棄物(安定型品目のみ)		42.9	0.0	0.0	42.9	36.5	0.0	6.4	85%
	混合廃棄物(管理型品目含む)		81.8	0.0	0.0	81.8	65.5	0.0	16.4	80%
計			1250.2	0.0	0.0	1250.2	1170.8	0.0	79.5	94%

※ 「その他がれき類」は、レンガ・瓦等を含む区分である。

表 6.5-4 工事中の廃棄物発生量の調査結果（体積ベース※1）

単位：m³/（工事期間全体）

区分			発生量	現場内		搬出				再生処理・
				減量化	有効利用	計	再生処理	減量化	埋立処分	減量化・有効利用率
			①	②	③	⑤+⑥ +⑦	⑤	⑥	⑦	(②+③+⑤ +⑥)/①
単品	安定型	コンクリートがら	311.5	0.0	0.0	311.5	311.5	0.0	0.0	100%
		アスコンがら	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		その他がれき類※2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		ガラス・陶磁器くず	89.6	0.0	0.0	89.6	53.8	0.0	35.8	60%
		廃プラスチック類	596.0	0.0	0.0	596.0	536.4	0.0	59.6	90%
		金属くず	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		石綿含有産業廃棄物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		ALC パネル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		その他								
	管理型	汚泥	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		紙くず	74.9	0.0	0.0	74.9	74.9	0.0	0.0	100%
		木くず	483.3	0.0	0.0	483.3	483.3	0.0	0.0	100%
		繊維くず	7.6	0.0	0.0	7.6	7.6	0.0	0.0	100%
		廃石膏ボード	257.0	0.0	0.0	257.0	257.0	0.0	0.0	-
		廃油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		その他								
	特管物	廃石綿等	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		引火性廃油	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		廃 PCB	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
		その他								
混合	混合廃棄物(安定型品目のみ)		165.0	0.0	0.0	165.0	140.3	0.0	24.7	85%
	混合廃棄物(管理型品目含む)		314.7	0.0	0.0	314.7	251.8	0.0	62.9	80%
計			2299.6	0.0	0.0	2299.6	2116.5	0.0	183.1	92%

※1 表 6.5-3 に示す重量データと換算係数（単位体積当たり重量）から計算した値であり参考値とする。「その他」は、換算係数が設定できないため、データなしとしている。

※2 「その他がれき類」は、レンガ・瓦等を含む区分である。

b) 残土

「工事中（その 1）報告」で掘削工事期間の実績値を報告したが、掘削工事以降の工事で残土の搬出入はなかったため、本報告での実績値は「工事中（その 1）報告」と同じである。

工事期間全体を通じた残土発生量の調査結果を表 6.5-5 に示す。

工事現場内の発生土は全て埋戻し等に利用し、場外搬出は生じていない。また、埋戻しに不足する土量については、外部より調達し工事現場内に搬入して利用した。

表 6.5-5 残土発生量の調査結果（工事中）

単位：m ³ /集計期間(全工事期間)		
区分	土量	備考
①掘削工事等による発生土	13,758	杭残土、根切土、土間下改良土
②現場内での利用土（埋め戻し）	19,071	埋戻し（X1～11、土間下、アンボンド下）
③場外からの搬入	5,313	①＋③＝②となる

※ X1～11 は工事における基礎番号である。

なお、残土を工事現場内で利用するに当たり、「宮城県建設汚泥発生利用指針」に基づき、建設汚泥の有害性を確認するため、土壌溶出試験（平成 15 年 3 月 6 日環境省告示第 18 号）及び土壌含有試験（平成 15 年 3 月 6 日環境省告示第 19 号）を行い、全ての分析項目について基準に適合し、利用上の問題が無いことを確認している。

c) 環境保全措置の実施状況

環境保全措置の実施状況を表 6.5-6 に示す。

評価書で示した環境保全措置がいずれも実施されていることを確認した。

表 6.5-6 環境保全措置の実施状況（廃棄物等）

評価書で示した環境保全措置	事後調査での実施状況
・工事中における建設廃棄物は、分別を徹底し、再資源化及び再利用等の促進を図るとともに、再利用できないものは専門業者に委託し、適切に処理する。	・工事で発生する建設廃棄物は、専門業者に委託して減量化・再資源化等することで適切に処理した。
・掘削工事に伴う発生土は、埋め戻し、敷き均しに利用し、計画地内で再利用することで、残土の発生を可能な限り回避・低減する。	・掘削工事に伴う発生土は、埋戻し等に利用した。埋戻しに不足する土量は外部から調達しており、残土の発生はない。

6.5.2 予測評価結果の検証

1) 廃棄物

予測評価結果の検証を表 6.5-7 に示す。

工事期間全体を通じた廃棄物発生量（体積ベース）は 2,299.6m³ であり、評価書での予測値（2,850m³）を下回る。発生量全体に関する有効利用率は、評価書での予測値（98%）よりはやや低い水準（92%）である。

なお、「コンクリートがら」については、評価書時点では、施工作業の詳細を検討中であったことから、発生量の予測ができていなかった。また「ガラス・陶磁器くず」については、ガラス原料や路盤材として再生利用（売却や再生委託）に努めているが、処理業者においては本事業以外の受入れ量も多く施設処理能力を考慮しながら作業を行う関係で再生利用できない分が生じてしまうこと、また、受入れ量のなかには施設内で再生利用できない性状の品目※も含まれることから、有効利用できない分が処理工程で発生してしまうため、有効利用率は 100%を下回っている。

※ 再生利用できない品目の例として、ロックウール建材、グラスウール建材、ガラス等があり、これらは破碎して埋立処分となる。

表 6.5-7 予測評価結果の検証（廃棄物）

単位：m³/集計期間(工事期間全体)

区分			事後調査※1				評価書			
			発生量	有効利用量	埋立処分	有効利用率	発生量	有効利用量	処分量	有効利用率
単品	安定型	コンクリートがら	311.5	311.5	0.0	100%	—	—	—	—
		ガラス・陶磁器くず	89.6	53.8	35.8	60%	800	800	0	100%
		廃プラスチック類	596.0	536.4	59.6	90%	700	700	0	100%
		金属くず	0.0	0.0	0.0	—	500	500	0	100%
	管理型	紙くず	74.9	74.9	0.0	100%	—	—	—	—
		木くず	483.3	483.3	0.0	100%	200	200	0	100%
		繊維くず	7.6	7.6	0.0	100%				
		廃石膏ボード	257.0	257.0	0.0	100%	600	558	42	93%
混合	混合廃棄物(安定型品目のみ)	165.0	140.3	24.7	85%					
	混合廃棄物(管理型品目含む)	314.7	251.8	62.9	80%					
その他（がれき類※）							50	40	10	80%
計			2,299.6	2,116.5	183.1	92%	2,850	2,798	52	98%

※1 評価書の予測値（体積ベース値）と比較するため、事後調査の値は、表 6.5-4（体積ベース値）より発生量があるものを抽出し整理した。事後調査値における「有効利用量」は、同表における減量化・再生処理・有効利用の合計に該当する。

2) 残土

「工事中（その1）報告」で掘削工事期間の実績値を報告したが、掘削工事以降の工事で残土の搬出入はなかったため、本報告での実績値は「工事中（その1）報告」と同じである。

予測評価結果の検証を表 6.5-8 に示す。

掘削工事による発生量は 13,758m³ であり、評価書での予測値（約 27,028m³）と比べて少ない。また、評価書では、発生土が埋戻しに必要な土量を上回り場外への搬出が生じると予測していたが、実際の工事では、埋戻しに必要な土量が発生量より多くなり、場外から搬入することとなった。

予測時との違いが生じた理由については、【1】評価書の予測値は施工業者選定前の概算値であったこと（①の違い）、【2】予測時には工事区域内に掘削土の仮置きができず場外搬出する想定であったが、実際には仮置きスペースが確保できたこと（④の減少）、【3】予測時には不足分の土量を購入する必要があったがその量が不明であったため「なし」と計上していたこと（見かけ上の③の増加、それに伴う②の増加）等、複数の要因が重なったことが挙げられるが、具体的な施工計画※に基づく工事を行った結果、事前の予測との乖離が生じたものと推測される。

※ 例えば、掘削量と同じ土量を埋め戻す場合でも、工事区域内に仮置き場が確保できる場合は搬出入がゼロとなるが、確保できない場合はいったん場外に搬出したのち必要な時期に調達・搬入することとなる。このように搬入/搬出量は施工計画と密接に連動している。

表 6.5-8 予測評価結果の検証（残土）

単位：m³/集計期間(全工事期間)

	事後調査 (全工事期間)	評価書 (全工事期間)
①掘削工事による発生土	13,758	約 27,028
②現場内での利用土	19,071	約 3,900
③場外からの搬入	5,313	なし
④場外への搬出	なし	約 23,128

※ (③－④) = (②－①) の関係がある。

6.5.3 追加的な環境保全対策等の検討

前項「6.5.2 予測評価結果の検証」で示したように、事後調査における廃棄物の発生量は、評価書の予測値よりも小さくなった。また、残土発生量についても同様である。

以上のことから、追加的な環境保全対策等は実施しなかったが、工事期間中には「6.5.1 5) (1) c) 環境保全措置の実施状況」に示す環境保全措置を継続することで、影響の回避・低減に努めた。

6.6 温室効果ガス

6.6.1 事後調査の結果等

1) 調査内容

調査内容を表 6.6-1 に示す。

表 6.6-1 調査内容（工事中の温室効果ガス）

区分	調査内容
対象事業の状況及び対象事業による負荷の状況	・二酸化炭素排出量
	・環境保全措置の実施状況

「区分」は、「仙台市環境影響評価技術指針」における「事後調査の内容」を踏まえたものである。なお、「環境保全措置の実施状況」は、事業者が実施するものであり「対象事業の状況及び対象事業による負荷の状況」と関連することから同項目のなかで整理した。

2) 調査方法

調査方法を表 6.6-2 に示す。

表 6.6-2 調査方法（工事中の温室効果ガス）

項目	調査方法
二酸化炭素排出量	・工事用車両及び重機の燃料使用量に基づく二酸化炭素排出量の推計
環境保全措置の実施状況	・記録の確認、施工業者等への情報照会とした。

3) 調査地域等

工事区域内とした。

4) 調査期間等

調査期間は工事期間全体とした。

なお、「事後調査報告書（工事中その1）」では、工事着手時から中間段階までの期間（2023年4月～2024年1月）の実績値を報告しており、これに2024年2月～8月分の実績値を加え今回の報告とした。

5) 調査結果

(1) 対象事業による負荷の状況

a) 二酸化炭素排出量等

二酸化炭素排出量の調査結果を図 6.6-1 及び表 6.6-3 に示す。また、推定の基礎データであるエネルギー使用量を図 6.6-2 及び表 6.6-4、セメント使用量を図 6.6-3 及び表 6.6-5 に示す。

工事期間全体を通じた二酸化炭素排出量は 15,727 tCO₂ と推計された。

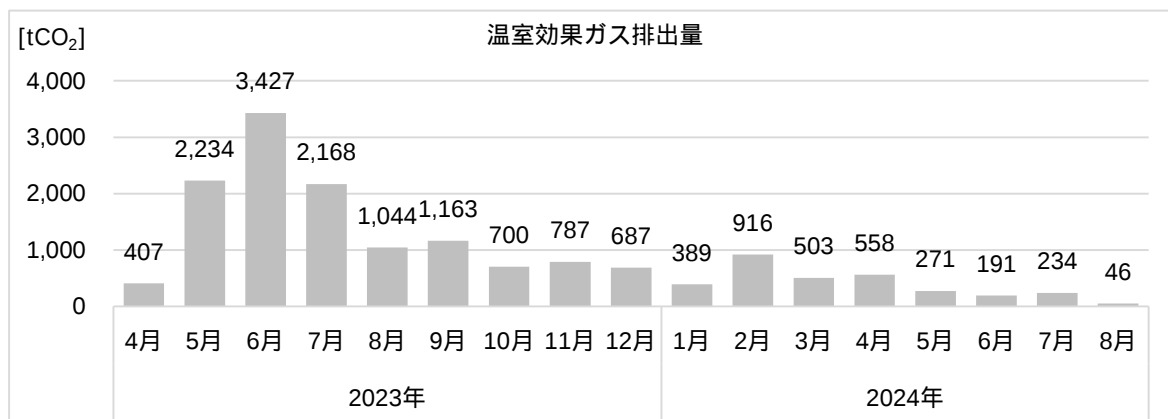
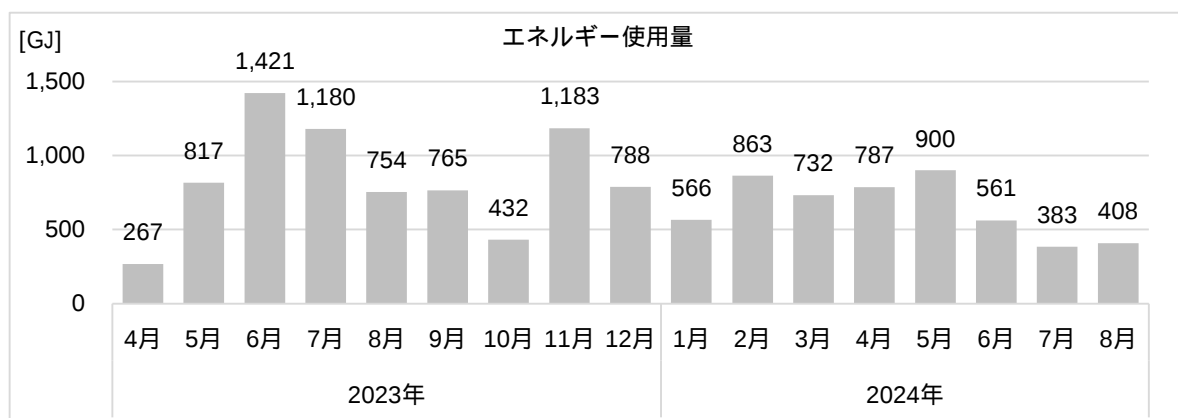


図 6.6-1 二酸化炭素排出量（工事中）



エネルギー使用量の大半（約 93%）は燃料由来であり、残りは工事事務所等で使用される電気由来である。

図 6.6-2 エネルギー使用量（工事中）

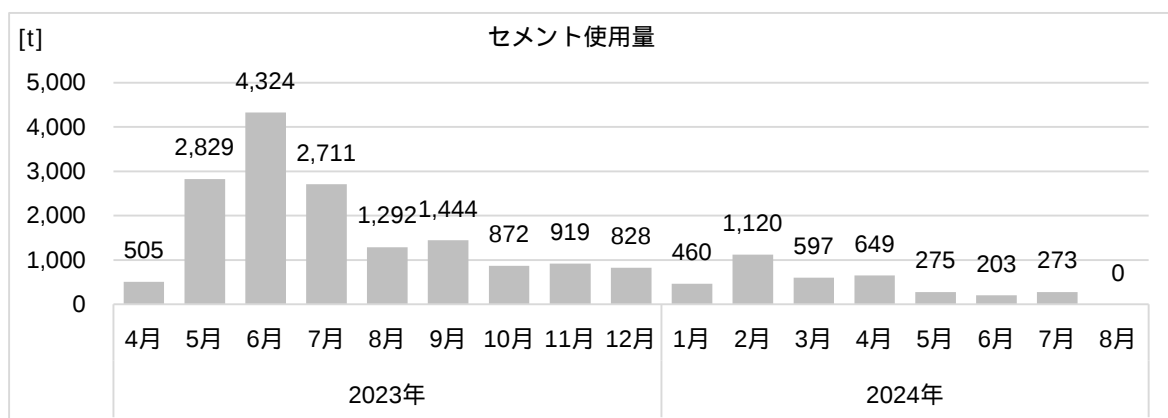


図 6.6-3 セメント使用量（工事中）

表 6.6-3 二酸化炭素排出量（工事中）

単位：tCO₂

		2023 年									2024 年								期間計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	
エネルギー 起源	電気	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	39	46
	燃料	17	52	91	77	48	49	28	79	48	34	52	43	51	59	35	23	7	792
セメント起源		390	2,182	3,336	2,091	996	1,114	672	709	639	355	864	460	501	212	156	210	0	14,888
計		407	2,234	3,427	2,168	1,044	1,163	700	787	687	389	916	503	558	271	191	234	46	15,727

表 6.6-4 エネルギー使用量（工事中）

単位：GJ

		2023 年									2024 年								期間計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	
電気(再エネ)		1	3	17	27	34	22	18	24	43	50	61	62	0	49	55	45	0	512
電気(非再エネ)		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53	0	0	0	306	363
燃料		262	814	1,404	1,153	719	743	414	1,159	745	516	802	670	734	850	506	338	102	11,932
計		267	817	1,421	1,180	754	765	432	1,183	788	566	863	732	787	900	561	383	408	12,807

表 6.6-5 セメント使用量（工事中）

単位：t

		2023 年									2024 年								期間計
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	
地盤改良工事		505	2,827	4,167	1,541	572	417	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,029
躯体工事		0	2	157	1,170	720	1,027	872	919	828	460	1,120	597	649	275	203	273	0	9,272
計		505	2,829	4,324	2,711	1,292	1,444	872	919	828	460	1,120	597	649	275	203	273	0	19,301

b) 環境保全措置の実施状況

環境保全措置の実施状況を表 6.6-6 に示す。

評価書で示した環境保全措置がいずれも実施されていることを確認した。

表 6.6-6 環境保全措置の実施状況（温室効果ガス）

評価書で示した環境保全措置	事後調査での実施状況
・ 資材運搬等の車両による搬出入について、計画的かつ効率的な運行管理に努める。 ・ 計画的かつ効率的な工事計画を検討し、建設機械を効率的に運用する。	・ 工事計画の策定にあたって、工事時用車両や建設機械を効率的に使用するよう努めた。
・ 工事用車両や建設機械のアイドリングストップを徹底する。	・ 工事用車両や建設機械のアイドリングストップを徹底した。具体的には、新規入場者への教育（資料配布）毎月開催される災害防止協議会での言及、現場管理者が場内巡回中に見かけたら都度声掛け、朝礼での注意喚起（週 1 回～隔週 1 回程度）を行った。
・ セメントを効率よく使用するためのセメント使用量の管理を行うとともに、補修等で使用するセメント量を低減するため精度の高い躯体を築造する。	・ 基礎地盤改良セメント系固化材はデジタル機器にて必要添加量を的確に混練させ、余材のない施工を実施した。コンクリート工事については、事前の数量拾いを行い、打設時の数量と照合し余分なコンクリートが発生しないよう管理している。これらにより、効率的なセメント使用に努めた。
・ 従業員各自が、環境への取組がコスト削減等につながることを認識し、省エネを徹底する（現場事務所等）	・ アイドリングストップの励行、指導や KS-1 燃料（低燃費）の採用、場内の仮設電気に LED 照明の採用、事務所現場のこまめな消灯など省エネ対策を実施した。
・ 工事記録等のデジタル化の推進による業務効率化を図り、エネルギー使用量の削減に努める。	・ 安全関係書類にデジタル書類を使用したり、図面閲覧等は WEB 上での閲覧するなど、業務効率化や紙資源の削減に努めた。

6.6.2 予測評価結果の検証

予測評価結果の検証を表 6.6-7 に示す。

事後調査での推計値（15,727tCO₂）は、評価書の予測値（16,412tCO₂）を下回っている。排出起源別の使用量については、燃料使用量（表 6.6-8）は予測条件として設定した値よりも少なく、セメント使用量（表 6.6-9）は予測条件として設定した値よりも多くなっている。

事後調査での推計値が評価書の予測値を上回った理由として、評価書時点では施工作業の詳細を検討中であり、精度よい予測ができなかったことが挙げられる。

表 6.6-7 予測評価結果の検証

	温室効果ガス排出量（tCO ₂ /集計期間）	
	評価書 （全工事期間）	事後調査 （全工事期間）
資材等の運搬	3,474	838
重機の稼働	595	
建築物の建築（セメントの使用）	12,343	14,888
計（ + ）	4,069	838
計（ + + ）	16,412	15,727

四捨五入により合計値が合わない場合がある。

表 6.6-8 燃料使用量（参考）

	燃料使用量（L/集計期間）	
	評価書 （全工事期間）	事後調査 （全工事期間）
集計期間計	1,574,000	315,165

表 6.6-9 セメント使用量（参考）

	燃料使用量（t/集計期間）	
	評価書 （全工事期間）	事後調査 （R5 年 4 月～R6 年 1 月）
集計期間計	16,000	19,301

6.6.3 追加的な環境保全対策等の検討

前項「6.6.2 予測評価結果の検証」で示したように、事後調査における温室効果ガス排出量の推計値は、評価書の予測値よりも小さくなった。ただし、内訳としてセメント使用の由来分については大きくなった。これらの差についてはエネルギー使用や温室効果ガスの発生に関して評価書で想定していなかった事態（施工方法の変更等）が生じたわけではなく、評価書時点で精度よく推定できなかったことによるものである。

以上のことから、追加的な環境保全対策等は実施しなかったが、工事期間中には「6.6.1 5) (1) b) 環境保全措置の実施状況」に示す環境保全措置を継続することで、影響の回避・低減に努めた。

第7章 事後調査の委託を受けた者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

受託者の名称 : 株式会社プレック研究所
 代表者の氏名 : 代表取締役 杉尾大地
 主たる事務所の所在地 : 東京都千代田区麴町 3 丁目 7 番地 6

環境影響評価の内容に関する問い合わせ先等	
委託者	株式会社プレック研究所 環境調査部門 102-0083 東京都千代田区麴町 3-7-6
事業者	株式会社ニトリホールディングス 建築設備本部 国内建築部 115-0043 東京都北区神谷 3-6-20
連絡先 (共通)	(仮称) ニトリ仙台 DC 新築工事 ニトリ・プレック環境アセスチーム TEL : 03-5226-1109

(見開きの関係から空白ページ)